

牧場でのふれあい体験支援体制確立を目指して！！

平成20年度 地域畜産ふれあい体験交流活性化事業報告書



「第4回里山で牛とのふれあい・体験ツアー」平成20年11月22日 防府市「ふるさと牧場」

「中学生がチーズ作りと乳製品料理にチャレンジ」
平成21年11月14日
周南市「和田中学校」



平成21年3月

やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議

社団法人 山口県畜産振興協会

はじめに

(社)山口県畜産振興協会は、平成 17 年度から3年間(社)中央畜産会の「地域畜産ふれあい体験交流推進事業」に取組み、ふれあい体験や畜産物加工調理体験教室実施を踏まえて、牧場でのふれあい体験の意義を確認し、広く波及するための課題や支援体制などについて、協議を重ねてきた。

平成 20 年度からは、県内にふれあい体験ができる牧場を増やしていくことを目標に、事業内容が組み替えられ、「地域畜産ふれあい体験交流活性化事業」となり、3年間実施することとなった。

山口県では、これまでのノウハウを活かして、小学校、中学校、高校と連携することをベースに多様な形でのふれあい体験の実践を行った。初めてふれあい体験を受け入れることになった牧場の支援に始まり、美祢市立大嶺小学校や山口市立二島小学校での「わくわくモーモースクール」、消費者を対象とした「池田牧場」での研修会、里山での野外体験を継続する「ふるさと牧場」でのふれあい体験、周南市立和田中学校でのチーズ作り体験および県立田部高等学校での牛乳乳製品料理を行った。

さらに、今年度は、11月に開催したふれあい体験を公開し、各県でふれあい体験事業を実践している担当者や受入牧場の方々にその様子を確認していただいた。今回は、その前日に山口市で行われた(社)中央畜産会主催の「第2回地域畜産ふれあい体験交流活性化シンポジウム」の様子をとりまとめた。当日事例紹介を行った、防府市「ふるさと牧場」山本代表が平成12年にとりまとめた「野に在りて想うこと」も併せて紹介するので、参考にさせていただきたい。

今後とも、畜産振興協会は、畜産農家の支援を行うと共に、消費者への畜産理解となるような活動も重視していきたいと考えている。

平成 2 1 年 3 月

やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議
社団法人 山口県畜産振興協会

目 次

1. やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議の概要 P1～2
2. 牧場でのふれあい体験研修及び畜産物加工調理体験教室の概要 P3～10
3. アンケート結果 P11～41
4. 「地域畜産ふれあい体験交流活性化事業 第2回シンポジウムの概要」 P42～49
5. 「野に在りて想うこと」 ふるさと牧場代表 山本 喜行氏 P50～59

<お知らせ>

(社)山口県畜産振興協会では、ふれあい体験推進の様子、報告書などの情報を、山口県畜産振興協会が管理するホームページ「やまぐち畜産ひろば」(アドレス:<http://yamaguchi.lin.go.jp/>)で紹介しています。(「やまぐち畜産ひろば」で検索できます。)

トップページから緑の文字で紹介してあるコーナーから「ふれあい体験協議会」(<http://yamaguchi.lin.go.jp/fureai/index.html>)をクリックしてください。

<問合せ先>

社団法人 山口県畜産振興協会 事業指導部

〒754-0002 山口市小郡下郷 2139 県 JAビル内

TEL 083-973-2725

FAX 083-974-1030

平成20年度 やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議

1.開催日時 平成21年2月9日(月) 10:00~13:00

2.開催場所 山口市湯田 防長苑

3.出席者

◇ 会議委員 9名(10人中1名欠席)

◇ 畜産振興協会 2名

4.内容

平成20年度の取り組み結果と次年度の活動計画について協議した。

[内容]

あいさつ

・ 畜産振興協会 富岡専務理事
議 事

(1)今年度の活動内容について

平成20年度のとりくみ内容を説明。

受入体制整備;新規受入牧場の支援(1回)

講習・研修会;大嶺小学校(先生と小学生向け1回)、池田牧場(消費者向け1回)

ふれあい体験;ふるさと牧場(子どもクラブ1回、親子1回)、二島放牧組合(小学生1回)

畜産物加工料理体験教室;和田中学校(1回)、田部高等学校(1回)

グッズ(牧場説明タペストリー、ルーメン模型、等身大牛)

とりまとめ;報告書、大嶺・二島紹介、和田小学校での取組み紹介

(2) 質疑

(消費者委員)エコクッキングから環境問題を考える講座を実施。その中で地産地消を推進している。一方、生産者のみなさん方との交流や体験も大切にしている。生産者の方の想い、さらに現場を見ることによって、コストや価格についても学ぶことが多い。適正な価格で農林畜産産業を支援していきたい。子どもたちは知識があっても体験が少ない。体験は重要だと思う。

(教育委員)体験ほど重要なものは無い。小学生の現状は悲惨。まず、保護者に体験が無いためしつけができず、子ども達に歪がきている。小さいうちの体験が必要。生命への感謝に繋がるのは農業体験。

(サポーター委員)酪農を支援。酪農家が消費者の意向を知らない(気にしない?)ことは感じる。動物園で2年アルバイトをし、動物とのふれあいも経験したが、産業動物では伝え方が難しいのを実感。

(参加者委員)3人の子どもがいる主婦。田んぼの学校小郡で子ども達に体験をさせていたが、なくなったので「ふるさと牧場」へ。学習塾もしているが、最近の子どもは大変。自身も友人を体験に誘うが、休みの日に動く人は少ない。そのような背景を考えると、学校での体験ができることは貴重。親世代に体験が無いのも事実である。例えば、命の育みを一番考える出産前後の母子教室で家畜を世話している畜産農家がお話することは効果があるかもしれない。

(生産者委員)阿武町で酪農経営。新規就農で8年目。元酪農ヘルパー。牧場にはドライブで立ち寄りの方も多く質問があれば応える。牛乳をよく知っている方もいるが、「水で薄めている?」と聞いてくる方もいる。チーズ料理に参加。酪農家自身がPRすることは重要であると感じている。

(生産者委員)美祿市で肥育経営。農政事務所主催のふれあい体験を受入。牛が肉になることの説明が重要と実感。ふれあい+食育が重要だと感じている。防府で肉屋も経営しているが、牛肉以外にも県内豚肉や鶏肉も提供。防府市の給食に牛肉を提供。

(サポーター委員)山大農場勤務の一方、里山環境プロジェクト代表として、子ども達への農業体験を実践している。畜産は環境を考えるために好材料。草を食べ、糞をする。糞から堆肥になり、米や野菜に利用される。このような資源循環を体験できる。

(学識経験者委員)本業は作物学(米、小麦)米では超多収米が話題。一方、子どもの米離れも進む。小さいときの食育が重要。自身は東京生まれの東京育ちであり、田舎にいくと逆に落ち着かない。小さいときの体験は奥が深い。文化につながるもの。池田牧場で環境学習を支援した。畜産はいろいろな切り口がある。

(生産者支援委員)県には酪農100戸。3組合で乳業協会。秋のきらら浜や各種イベントのときに牛乳PRを実践。希望の学校で料理教室もやる。大嶺小学校で支援し、子どもだけでなくお母さん方が参加したことに感動。今回はバケツで模擬搾乳をやったが、本物が提供できるように協力したい。

新規受入牧場支援結果（受入体制整備）

1. 開催日時 平成 20 年 8 月 28 日(金) 12:00~16:00

2. 開催場所 榎本牧場(岩国市向峠 酪農)

3. 参加者

- 支援者 6名(榎本牧場、瀬川牧場、藤井牧場、県酪農乳業協会職員、サポーター1名、事務局1名)
- 参加者 周南市夜市小学校 60名、引率の先生、学生ボランティア、周南市、岩国市

4. 内容

経緯 榎本牧場(新規)へ市から子ども体験プロジェクト引受依頼。協会に体験内容や資料作成の相談があり、教育ファーム藤井牧場、新規希望の瀬川牧場に呼びかけ、受入実施。

実践メニュー 牧場の仕事説明、牧場探検、飼料(実量)説明、搾乳体験、子牛ふれあい。

参加者の感想

先生も牧場や搾乳ははじめての体験。学生ボランティアも初体験。

5. 結果・課題

- 牧場からの相談を受け、初めての牧場での体験活動を実践。これまで関心の無かった酪農家からの依頼であり、牧場スタッフにも意識改革？
- 子どもプロジェクトの安易な依頼は継続性に疑問。
- 新たに子ども達の受入を行うきっかけは多様。畜産農家にも消費者へ伝えたい意向はある。資料など農家では煩わしく感じる準備への対応が必要。



搾乳器具による説明



削蹄杵を利用して搾乳体験

大嶺小学校での畜産ふれあい体験学習開催結果（講習・研修会） （わくわくいきいきモーモースクール）

1. 開催日時 平成 20 年 10 月 27 日(月) 9:30～13:00
2. 開催場所 美祢市立大嶺小学校
3. 参加者
 - 参加 1 年生 70 名、保護者 54 名、担任教諭 4 名、栄養教諭、校長
 - スタッフ 畜産農家 6 名、酪農団体 4 名、関係機関 4 名、事務局 6 名
4. 内容

酪農を知るコーナー

大石サポーターによる乳牛の説明。酪農家から飼料説明・酪農の仕事説明。バケツ乳搾りキットによる搾乳競争。

和牛とのふれあいコーナー

美祢市田邊牧場の放牧牛、畜試の子牛2頭を使い、牛に触る。牛の身体測定(体高、胸囲)鼻紋採取、山口型放牧説明。

バター作り体験

県酪乳業協会スタッフの指導によりペットボトルでのバター作り体験。カッテージチーズ紹介、マンゴーミルクジュース試飲。

給食交流

参加農家が 1 年生 3 クラスの教室にわかれて一緒に給食をしながら交流。

5. 結果・課題

- 昨年度から計画されており、搾乳体験無しで実施。先生は異動により全員初体験。
- 1 年生なりに理解。保護者からはもっと生産者の話を聞きたいという意見が多い。
- 学年による適切な対応が難しい。先生との事前打ち合わせが不足していたことを痛感。



酪農家による説明



美祢市田邊牧場の放牧牛

池田牧場で消費者が酪農体験 開催結果（講習・研修会）

1. 開催日時 平成 20 年 11 月 12 日(水) 10:00～13:00
2. 開催場所 池田牧場(防府市牟礼 酪農)
3. 参加者
 - 参加 市婦人会16名、近所6名、ボランティア12名、サンサングループ8名
 - スタッフ 池田牧場 2名、防府酪農 1名、事務局 3名
4. 内容

牧場概要説明・酪農のお話

池田牧場の話(池田さん)、酪農の話(事務局)

牧場見学

搾乳室、搾乳牛舎、育成・肥育牛舎、たい肥処理施設、巨大機械説明

牛乳料理紹介

市販牛乳からカッテージチーズづくり体験。ミルク鍋試食。参加者交流会。

意見交換

酪農家のお話、ボランティアグループによる牛舎でオカリナ演奏

5. 結果・課題

- 地元小学校や中学校を多く受入れる池田牧場に市婦人会から研修依頼。消費者への紹介を実践するため、広く市内活動グループに呼びかける。
- 子育てを終えた世代であるが、乳牛や酪農のことを知らない主婦は多いことを実感。牛乳からカッテージチーズを作ることも初めての方が多。
- 消費者が牛乳を生産する牧場についてどこまで理解しているかは未知数。世代を超えた学習の場が必要である。



牛舎内説明



カッテージチーズ実演

二島小学校での畜産ふれあい体験学習開催結果（体験・交流会） （わくわくいきいきモーモースクール）

1. 開催日時 平成 20 年 10 月 31 日(金) 9:30～13:00
2. 開催場所 山口市立二島小学校
3. 参加者
 - 参加 1 年生、2 年生、5 年生 57 名、保護者 2 名、担任教諭 3 名、校長
 - スタッフ 放牧組合 1 名、畜試 3 名、農林事務所畜産部 2 名、事務局 2 名
4. 内容

放牧組合のお話

杵崎の里放牧組合長から二島地区で放牧を始めた経緯紹介。

子牛とのふれあい・和牛のお話

畜試の子牛 2 頭を使い、牛に触る。牛の身体測定（体高、胸囲）鼻紋採取体験。試験場職員から山口型放牧説明。

放牧牛とのふれあい

放牧牛に触る。耕作放棄地で牛を放牧する意味を説明。

給食交流

スタッフが 3 クラスの教室にわかれて一緒に給食をしながら交流。

5. 結果・課題

- 牛のいない地域に、放牧が開始されたことを機会に、地域農業を知る取組みをしていた二島小学校と連携して、牛を知る体験学習実施。
- 6 割は初めて牛に触る。校庭や放牧地での体験は好評。
- 畜産試験場の子牛はよく人に馴れており、ふれあいには必須。耕作地放牧は各地に広がっており、放牧地の近くに小学校があれば、このようなふれあい体験は可能。放牧地も牧場であり、多くの体験が可能であることを示唆。



畜産試験場の子牛



通学路沿いに放牧されている牛

里山で牛とのふれあい体験（福川こどもクラブ）開催結果（体験・交流会）

1. 開催日時 平成 20 年 11 月 8 日(土) 10:00～16:00
2. 開催場所 ふるさと牧場(防府市久兼 肉用牛繁殖、水稻、林業)
3. 参加者
 - ◇ 参加者 15 名(福川こどもクラブ 小学生7名、スタッフ8名)
 - ◇ 支援者 牧場 2 名、事務局3名

4. 内容

野外調理体験

- 野菜収穫、竹の器作り、鶏解体、羽釜炊飯、鳥鍋県産牛肉。薪割から火おこしまで。

和牛体験

- 和牛を知る 和牛登記書の説明。子牛の測尺。鼻紋採取。

里山探検

- 放牧牛探索、植林した苗木確認(林業と放牧のお話)、牛が作った道を歩く体験。

ふりかえり、ふるさと牧場の話

- 体験内容の確認、山本さんのお話

感想

竹加工が人気。ボランティアスタッフも野外調理や牛道等初体験が多い。

5. 結果・課題

- 周南市で小学生を対象に自主的に活動しているグループ(福川こどもクラブ)からの依頼により実施。
- 福川こどもクラブは地域の小学生に月1回体験メニューを実践しているが、活動の場所が限定されることが悩みであったが、ふるさと牧場で多くの活動ができることを認知。
- 福川こどもクラブスタッフに牧場体験を理解してもらうことで、他の牧場でも体験する可能性あり。



牧場の竹で器と箸づくり



子牛の鼻紋採取

第4回里山で牛とのふれあい体験 開催結果（体験・交流会）

1. 開催日時 平成20年11月22日(土) 9:30～15:30
2. 開催場所 ふるさと牧場(防府市久兼 肉用牛繁殖、水稻、林業)
3. 参加者
 - ◇ 参加者 9組26名(防府市、山口市) 各小学校へダイレクトメール
 - ◇ 関係者 牧場2名、講師2名(NPO きららの里)、事務局2名
 - ◇ サポーター 5名(一般3名、県職員2名)、研修生2名

4. 内容

牧場体験

- 飼料給与 参加親子で子牛と母牛へ飼料給与。
- 和牛を知る 和牛登記書の説明。子牛の測尺。鼻紋採取。

竹加工体験

- NPO 法人きららの里講師指導により、竹の器、竹の箸作りにチャレンジ。

野外調理体験

- ふるさと牧場棚田米、牧場野菜、県産牛肉、モツ鍋。薪割から火おこしまで参加者が体験。昼食。
- 「ぐりとぐら」絵本朗読。絵本のとおりに野外でケーキを作る体験(参加者提案)。

里山探検

- 林間放牧されている牛の探索。牛道を歩く体験。途中、山本さんのお話。

意見交換、ふるさと牧場の話

- ケーキを食べながら、山本さんのお話、情報交換。

感想

竹加工、牛道が人気。

5. 結果・課題

- リピーターの参加も多くなっていくが、地元からの初参加者もあり、参加者同士の交流も広がる。参加者の中から料理の得意な方が、野外でのケーキ作り希望・実践するなど、新たな活動の可能性あり。



子牛と母牛へのエサやり



絵本のとおりにケーキ完成

中学生がチーズづくりと乳製品料理にチャレンジ開催結果（調理教室）

1. 開催日時 平成20年11月14日(金) 13:00～16:00

2. 開催場所 周南市立和田中学校調理室

3. 参加者

- 講師 弘重 正久氏(スイス国家資格チーズ士)、藤井朋子氏(酪農)
- 参加 和田中学校2年生14名、教員1名、和田ファーム6名、保護者1名
- スタッフ 酪農家1名、農林事務所畜産部1名、事務局2名

4. 内容

チーズ作り体験

弘重講師指導により、藤井牧場の原乳を利用したフレッシュチーズ製造体験。前日製造したフレッシュチーズをつかったモzzarellaチーズ製造体験。

チーズを使った調理教室 4班に分かれて調理開始

藤井講師指導により、オリジナル料理4品作成。モzzarellaのピザ、トマトとモzzarellaのサラダ(カプレーゼ)、モzzarellaチーズの刺身、モzzarellaのフルーツデザート。

試食

生徒と地域から参加した方、スタッフと一緒に試食。

意見交換

弘重氏、藤井氏からチーズや酪農のお話。

感想

チーズへの興味を持った生徒が多かった。

5. 結果・課題

- 原乳とレンネット、ヨーグルトを使った本格的なチーズ製造の体験。美祢市在住の弘重氏も、中学生に教えるのは初めての経験であったが、チーズ普及には理解があり、今後も連携予定。
- チーズ製造には専門の道具は要らないが、温度管理とレンネットを入れるタイミングなど奥が深く、専門家がいないと体験できない。
- 事前に藤井牧場での体験や出前授業を経てのチーズ作りならば、より理解も深まったと感じるが、中学校と当初からの打ち合わせが必要である。



熱湯を使ってチーズを伸ばす作業



出来たチーズを使った料理

高校生の牛乳・乳製品料理 開催結果 (調理教室)

1. 開催日時 平成20年12月4日(水) 10:00～13:00

2. 開催場所 山口県立田部高等学校(下関市菊川町)

3. 参加者

- 講師 河村 京子 先生
- 参加 総合生活科・普通科2年生39名、教員2名
- スタッフ 助手2名、酪農家2名、事務局2名

4. 内容

講師による料理手順説明

クリスマスパーティーをテーマに、オードブル、スープ、メインディッシュ、デザート

調理

8班に分かれて、各テーブルで調理開始(スタッフ、酪農家も各班に入る)。

試食

試食をしながら交流

感想

たくさんのメニューが出来たことに満足。牛乳やチーズが苦手な生徒は食べ残した。

5. 結果・課題

- 昨年に引き続き高校から料理教室の依頼。
- 酪農家のお話を含めた事前授業を12月3日(水)に行い、生徒には酪農と牛乳についての講義をする。
- 総合生活科の生徒であるが、料理の苦手な生徒も多く、個人差が出ていた。また、乳製品の解説を十分しておらず材料の名前に戸惑う生徒もあり。高校と講師を交えた事前打ち合わせが必要。



12月3日事前学習 酪農家のお話



河村講師の指導

大嶺小学校 ふれあい体験交流会 (10月27日児童生徒等子供向け)

1. 学年 男 女 年齢()		人数	%
小1	男 年齢(6~7)	33	47.1%
	女 年齢(6~7)	36	51.4%
	無記名	1	1.4%
	計	70	
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)		人数	%
	和牛とのふれあい体験	51	29.3%
	酪農コーナー	58	33.3%
	バター作り	64	36.8%
	その他	1	0.6%
	計	174	
	その他の内訳		
3. 牛とふれあってどうでしたか。(3つまで)		人数	%
	初めて牛に触った	44	23.2%
	気持ちよさそうにしていた	22	11.6%
	気持ち悪かった	4	2.1%
	牛の気持ちがわかった	12	6.3%
	臭かった	8	4.2%
	またしてみたい	27	14.2%
	汚かった	1	0.5%
	「いのち」の大切さを感じた	17	8.9%
	温かかった	33	17.4%
	牛も人間も同じだと思った	6	3.2%
	優しかった	15	7.9%
	その他	1	0.5%
	計	190	
	その他の内訳		
4. このような体験は初めてですか。		人数	%
	初めて	52	74.3%
	2回目	10	14.3%
	3回以上	8	11.4%
	計	70	
5. 今日の体験に参加されていかがでしたか。		人数	%
	やって良かった	31	23.7%
	またやりたい	38	29.0%
	期待はずれだった	1	0.8%
	疲れた	8	6.1%
	予想以上によかった	7	5.3%
	もうやりたくない	3	2.3%
	楽しかった	41	31.3%
	その他	2	1.5%
	計	131	
	その他の内訳		
	初めて牛にさわってたのしかった。		
6. 今日の時間割はどうでしたか。		人数	%
	ちょうど良かった	42	52.5%
	時間が短かった	15	18.8%
	時間が長すぎた	8	10.0%
	説明の時間が長すぎた	15	18.8%
	その他()	0	0.0%
	計	80	
	その他の内訳		
7. 配られた印刷物についてはいかがでしたか。		人数	%
	よくわかった	34	47.9%
	むつかしかった	16	22.5%
	まあまあわかった	13	18.3%
	よくわからなかった	8	11.3%
	その他	0	0.0%
	計	71	
	その他の内訳		

大嶺小学校 ふれあい体験交流会 (10月27日児童生徒等子供向け)

1. 学年 男 女 年齢()	人数	%
8.こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)		
本当の乳搾りがしたかった。	23	
牛に乗ってみたかった。	18	
休み時間がほしかった。	2	
他にも教えてもらいたいことがあった。	2	
本物の白と黒の牛が見てみたかった。	1	
牛と競争したかった。	2	
角をさわりたいかった。	2	
チーズ作り。	2	
餌をあげたかった	10	
牛をさわりたいかった。	7	
マンゴージュースをまた飲みたい。	2	
バター作りをまたやりたい。	4	
他にも食べてみたいものがあった。	1	
バター作りを自分でやってみたかった。	1	
牛と遊びたかった。	3	
乳搾りゲーム。	2	
チーズがいっぱいあれば良かった。	1	
みたらし団子作りたかった。	1	
もっといろんなものを作ってみたかった。	1	
もっと食べたかった。	1	
9.全体の感想		
チーズ作りが難しかった。	1	
乳搾りが難しかった。	4	
チーズ作りがわかった。	1	
乳搾りが楽しかった。	11	
牛をさわるのが楽しかった。	6	
赤ちゃんがいるのがわかった。	1	
楽しかった。	12	
またやりたい。	13	
牛がかわいかった。	6	
バター作りのときのみたらし団子がおいしかった。	1	
牛はふわふわだった。	3	
牛は暖かかった。	1	
またさわりたい。	2	
牛の餌がわかった。	1	
バター作りがわかった。	1	
バター作りがおもしろかった。	6	
餌を一生懸命食べていた。	1	
うんちが気持ち悪かった。	1	
臭かった。	1	
バター作りが難しかった。	4	
チーズ作りが楽しかった。	1	
バターがおいしかった。	3	
ビスケットがおいしかった。	2	
チーズがおいしかった。	1	
乳搾り競争で一番になったのが嬉しかった。	2	
乳搾りが本物じゃなかったけどおもしろかった。	1	
牛と仲良くできて良かった。	1	
牛と一緒にいっぱい遊びたい。	1	
牛肉がおいしかった。	1	
牛は大きかった。	1	
乳搾りがまだしたかった。	2	
気持ちよかった。	1	

大嶺小学校 ふれあい体験交流会 (10月27日保護者向け)

1. 性別と年齢をお答え下さい。		人数	%
男	20代	0	0.0%
	30代	0	0.0%
	40代	1	1.9%
	50代	0	0.0%
	60代以上	0	0.0%
女	20代	3	5.6%
	30代	35	64.8%
	40代	14	25.9%
	50代	1	1.9%
	60代以上	0	0.0%
計		54	
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)		人数	%
和牛とのふれあい体験		38	31.7%
酪農コーナー		37	30.8%
バター作り		45	37.5%
その他		0	0.0%
計		120	
その他の内訳			
3. 畜産体験をご覧になった感想をお聞きます。(3つまで)		人数	%
こどもが楽しんでいた		53	42.1%
自分もしてみたかった		8	6.3%
つまらなかった		0	0.0%
試食がおいしかった		24	19.0%
またさせたい		36	28.6%
もうさせたくない		0	0.0%
その他		5	4.0%
計		126	
その他の内訳			
身近な食物なのに知らないことが多く、指導者の方の説明が興味深かった。			
親と一緒にできれば、子供が喜ぶので何回でもさせてあげたい。			
他の学年も6年までに経験してほしい(兄がうらやましがっていたから)。			
寒かったので子供に汚れてもいい上着を持たせたら良かったと思う。			
牛についての知識がふえました。勉強になりました。			
4. 生産者や関係者の話についての感想を聞かせてください。(3つまで)		人数	%
生産者の気持ちが理解できた		44	51.2%
もっと話が聞いてみたい		25	29.1%
まだよくわからないことがある		6	7.0%
時間がなかった		5	5.8%
生産者の言い分が理解できない		1	1.2%
つまらなかった		0	0.0%
消費者の要望も聞く交流会をしたい		4	4.7%
その他		1	1.2%
計		86	
その他の内訳			
生産者の意見をもっと聴いてみたい。			
5. 牧場体験や加工体験のイベントがあれば参加しますか？		人数	%
する		30	53.6%
しない		0	0.0%
そのときになって考える		12	21.4%
内容による		11	19.6%
その他		3	5.4%
計		56	
その他の内訳			
仕事の都合がつけば		3	
6. いま、一番知りたい畜産の情報は何か。(3つまで)		人数	%
農家の実状はどうなのか。		1	
牧場体験できる場所など。		1	
牛乳が無くなるということはないのか。		1	
今後もバター不足は続くのか。		1	

大嶺小学校 ふれあい体験交流会 (10月27日保護者向け)

1. 性別と年齢をお答え下さい。	人数	%
安全性、安全対策。	8	
なぜ、畜産の仕事を始めたのか。	1	
畜産の仕事で良いこと、悪いことを教えてほしい。	1	
生産から食卓までのルート。	2	
値段の決め方。	1	
おいしい牛肉の選び方(産地)。	1	
美祿の肉はどこに流通されているのか。	1	
畜産で使用するエサは安全か。	1	
牛の病気、感染しないようどのような対策をしているのか。	1	
牛乳が食卓に届くまでのビデオを見たり、視察したい。	1	
メディアでいろいろ取り上げられているが国産は本当に大丈夫か。	1	
BSE、鳥インフルエンザはどうなった。	1	
家畜の健康状態。	1	
コストの問題(安い値段により生産者への負担が大きくなっていないか)。	1	
需要と供給の関係(牛乳などはとれすぎて捨ててしまうニュースを聞いたことがある)。	1	
美祿の畜産試験場ではどんなことをしているのか。	1	
牛は病気をしますか(風邪など)。	1	
牛の一番好きな食べ物は何か。	1	
搾乳器具などをどのようにして洗浄しているのか聞いてみたい。	1	
乳製品を使った料理、お菓子作りのレシピが知りたい。	1	
7. 全体を通しての感想をお願いします。	人数	
地域の農家とふれあいできた。	1	
厳しい現実の中でもがんばっている若い人を見て安心した。	1	
次の世代のことが不安になった。	1	
牛以外の動物もさわってみたかった。	1	
こどもが楽しそうだった。	18	
親も楽しかった。	9	
またやらせてあげたい。	3	
日頃出来ない体験をできて良かった。	15	
一年生には難しい話もあったようだ。	1	
勉強になった。	6	
家庭でもこどもと一緒におやつ作りを試してみる。	3	
本物の乳搾りが出来なかったのが残念。	4	
こどもたちの聞く態度がもう少し良くなってほしい。	1	
寒かった。	2	
他の学年のこどもにもやらせてあげたい。	1	
「いただきます」の意味がわかった。	7	
忙しい中来てくれた酪農家の方へありがとう。	1	
ふれあいのできる牧場が近所があれば知りたい。	2	
食育にもつながるので良かった。	1	
いろいろな加工体験を試してみたかった。	1	
農家の現状を聞いたことが勉強になった。	2	
自分のこどもが話を聞いていなければ保護者は注意すべきだ。	1	
仕事を休むほどではなかった。親子参加ではなく自由参加にしてほしい。	1	
命をいただいているということをこどもたちに伝えたい。	3	
説明が熱心で、大きい子はまた違うとらえ方が出来たのではないだろうか。	1	
わかりやすい説明だった。	1	
レシピをもらえれば活用したいので欲しい。	1	
こどもと一緒になにかできたことが嬉しい。	1	
牛が逃げたときに恐かった。管理の徹底を。	1	
こどもたちは実際に牛を見て感動している様子だった。	1	
試食の量が少なかった。	1	
生産過程で多くの人の手が関わって育てられていることがわかった。	4	
農家が一生懸命牛を育てていることがわかった。	1	

大嶺小学校 ふれあい体験交流会（10月27日教育関係者向け）

<p><参加しての感想></p> <p>多くのスタッフの方が早朝よりたくさんの準備をしてくださり、児童が種々の体験をさせていただくことができたことを大変うれしく思います。私自身も和牛や仔牛にふれることが少なく、初めて知ることを感じる感じがたいへん多かったです。</p> <p>子どもたち（1年生）の反応のすごさ（日頃と比べ）に驚いた。やはり本物に触れ、実際に体験することは素晴らしいなあと実感した。</p> <p>牛という漠然とした対象を自分の目で見て肌で感じることは良かったです。またいろいろなコーナーでそれぞれに詳しいお話が聞けたのも理解が深まりました。</p> <p>生命をいただくという食育の学習、動物とのふれあいなどを体験することにより、学習に対し子どもたちが積極的に取り組む姿勢が見られ、とても良かったと思います。</p> <p>やはり本物の乳牛にふれて、そこから出るお乳を見て、牛乳の大事さを味わわせたかったです。しかし子どもたちは、オスの牛がなかなか生き残れないことを聞き、牛の胃・舌・しっぽが食べられていることを資料で知り、とても驚いていたようです。実際に肉牛にあって触れたことがとても良い経験になりました。</p>
<p><よかったこと></p> <p>今年は保護者も参加し、親子教室としてできたことがとても良かったと思います。畜産・酪農あるいは牛乳に関することについても親子で会話する機会が増えたのではないかと思います。実際に牛を育てていらっしゃる酪農家の方々に直接お話をうかがえたことが大変良かったです。</p> <p>3つのコースはどれも子どもたちにとって興味深い内容であり、時間もたっぷりあったので、じっくり体験することができた。保護者の参加が予想以上に多く、しっかり見て（体験）していただいたので、家庭での共通の話題となったと思われる。</p> <p>クラス単位でコーナーを回れるようにしたのは良かったと思います。また、保護者の参加により親子で体験できたのは、家に帰っても話題が共有でき子どもがわかりにくかったことも親が教えられたのではないかと思います。</p> <p>牛について、いろいろな学習にいかされ、より深く考えることができました。後の学習において、作文・絵などにいかされました。</p> <p>乳搾りが本物ではなかったですが、お湯だったので本物のお乳のように感じられました。牛が3頭も来てくれたので、たっぷり見たり、触れたりすることができました。自分たちが作ったバターだけでなく、他のおやつも作り方を知ることができ、試食をすることができたので、ぜひ家でも作ってみようという気持ちになりました。レシピが欲しいとお母さん方数人から問い合わせがありました。</p>
<p><課題と感ること></p> <p>月曜日の午前中ということで、和牛に負担をかけてしまったこと。スタッフの皆さんの準備の時間が不足したことについて大変申し訳なく思いました。</p> <p>難しいとは思いますが、乳牛がいると乳搾りの模擬体験もさらに現実味を帯びたのではないかと思います。</p> <p>学校では、次は自分たちが体験できるのかなという児童の気持ちを考えると、毎年実地していただければと思っています。今年も昨年は5年の体験があったのにそれをしなかったのが、5年生からどうして自分たちはないのと言われました。</p> <p>牛乳についてのコーナーでは、説明が一年生には少し難しかったように思われます。とても大変だろうなと思いつつ、本物の乳搾りを体験させてあげたくも感じました。</p> <p>話を聞くときはしっかり聞く。さわったり見たりするときはたっぷり体験するという決まりが守れていないことがいて、説明の方に迷惑をかける場面が何回かありました。せっかく保護者の人にもたくさん来ていただいたが、バター作り以外では遠巻きに見ているだけだったので、もっと声かけをするなどこちらがわの工夫が必要であったと思う。</p>
<p><その他、意見など></p> <p>移動手段の問題や時間的制約もあって児童が畜産試験場や牧場にうかがうということが難しく、このように学校へ来ていただけるといことは大変ありがたいことだと思います。ぜひ、今後もお願いしたいです。</p> <p>たくさんの方々のご心配があって、今回のモーモースクールが実地できたこと大変感謝しております。今年は全体計画としてはこのスクールだけの実地しか考えておりませんでした。やはりこれを生かすためには、引き続きの授業等の実地も必要かと考えますので1年と話し合っていきたいと思います。</p> <p>給食のときに、牛の角を切る理由、牛は2時間ぐらしか眠らないことなどのお話を聞くことができとても良かったです。</p>

池田牧場 消費者牧場体験研修会 2008.11.12 アンケート

1. 性別と年齢をお答え下さい。	人数	%
女 50代	12	48.0%
60代以上	13	52.0%
計	25	
2. 今日は何が良かったですか。(3つまで)	人数	%
池田牧場の話	8	29.6%
牧場視察	8	29.6%
牛乳料理	10	37.0%
その他	1	3.7%
計	27	
その他の内訳		
牛が可愛かった		
3. 池田牧場での体験の感想を聞かせてください。(3つまで)	人数	%
初めて知ることがあった	23	37.7%
子どもたちに体験させたい	15	24.6%
つまらなかった	0	0.0%
試食がおいしかった	19	31.1%
参考にならなかった	1	1.6%
子どもたちには体験させたくない	1	1.6%
その他	2	3.3%
計	61	
その他の内訳		
児童館の子どもたちに以前体験させたことがある		
とても有意義でした		
4. 生産者や関係者の話についての感想を聞かせてください。(3つまで)	人数	%
生産者の気持ちが理解できた	25	46.3%
もっと話が聞いてみたい	15	27.8%
まだよくわからないことがある	2	3.7%
時間がなかった	1	1.9%
生産者の言い分が理解できない	1	1.9%
つまらなかった	0	0.0%
消費者の要望も聞く交流会をしたい	10	18.5%
その他	0	0.0%
計	54	
5. 牧場体験や加工体験のイベントがあれば参加しますか？	人数	%
する	20	71.4%
しない	0	0.0%
そのときになって考える	5	17.9%
内容による	3	10.7%
その他	0	0.0%
計	28	
6. いま、一番知りたい畜産の情報は何ですか。(3つまで)	人数	%
食肉の安全性	1	
牛乳の安全性	1	
商品として名前など	1	
7. 全体を通しての感想をお願いします。	人数	%
牛乳なべや、チーズの作り方を教えていただき、ありがとうございました	1	
楽しかった	5	
日頃ふれることのない牛にふれることができた	1	
初めての体験だった	1	
勉強になった	2	
天気も良く気持ちよく過ごせた	2	
牛乳のいろいろな食べ方を教わったので、献立に取り入れたい	1	
おいしい牛乳鍋、ごちそうさまでした	4	
お手伝いしてくれた皆さんありがとうございます	1	
牛を見てさわったことが今回のおみやげ	1	
今日の出会いが大切だと思った	1	
牛が元気に育っていて、きれいに管理されていることに感心した	1	
おいしい牛乳ができるのがわかった	1	
今まであまり牛乳を飲めなかったが、工夫して料理に取り入れたいと思った	1	
牛の気持ちが少しわかったような気がする	1	
大変な仕事だと思った	1	
暖かいもてなしがうれしかった	1	
参加して良かった	1	
近所にいたのに今まで無関心だったと気づいた	1	
生産者の苦勞を一般の人に知らせたい	1	
チーズがおいしかった	1	

ふれあい体験交流会 二島小学校(10月31日児童生徒等子供向け)

1. 学年 男 女 年齢()		人数	%
小1	男 年齢(6~7)	9	64.3%
	女 年齢(6~7)	5	35.7%
計		14	
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)		人数	%
放牧の話		10	26.3%
子牛とのふれあい		13	34.2%
和牛の身体測定		9	23.7%
その他		6	15.8%
計		38	
その他の内訳			
うんこばし		5	
牛がこわかった		1	
3. 牛とふれあってどうでしたか。(3つまで)		人数	%
初めて牛に触った		8	16.0%
気持ちよさそうにしていた		7	14.0%
気持ち悪かった		1	2.0%
牛の気持ちがわかった		8	16.0%
臭かった		0	0.0%
またしてみたい		3	6.0%
汚かった		0	0.0%
「いのち」の大切さを感じた		6	12.0%
温かかった		9	18.0%
牛も人間も同じだと思った		4	8.0%
優しくかった		3	6.0%
その他		1	2.0%
計		50	
その他の内訳			
気持ちが良かった		1	
4. このような体験は初めてですか。		人数	%
初めて		7	50.0%
2回目		4	28.6%
3回以上		3	21.4%
計		14	
5. 今日の体験に参加されていかがでしたか。		人数	%
やって良かった		12	32.4%
またやりたい		13	35.1%
期待はずれだった		0	0.0%
疲れた		0	0.0%
予想以上に良かった		3	8.1%
もうやりたくない		0	0.0%
楽しかった		9	24.3%
その他		0	0.0%
計		37	
その他の内訳			
6. 今日の時間割はどうでしたか。		人数	%
ちょうど良かった		10	58.8%
時間が短かった		6	35.3%
時間が長すぎた		0	0.0%
説明の時間が長すぎた		1	5.9%
その他		0	0.0%
計		17	
その他の内訳			
7. 配られた印刷物についてはいかがでしたか。		人数	%
よくわかった		11	78.6%

ふれあい体験交流会 二島小学校(10月31日児童生徒等子供向け)

むつかしかった	0	0.0%
まあまあわかった	1	7.1%
よくわからなかった	1	7.1%
その他	1	7.1%
計	14	
その他の内訳		
すごく分かった	1	
8.こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)	人数	%
エサをあげたい	2	
鼻の鼻紋を採りたかったです	8	
牛の口の中を見たかったです	1	
牛の体がもうちょっとさわりたいかったです	1	
牛のミルクを飲みたい	1	
牛に乗りたかった	4	
ボスにさわりたいです	1	
牛と闘いたかった	1	
9.全体の感想	人数	%
牛にさわってうれしかった	5	
これからもお願いします	3	
ほんとうたのしかったです	2	
牛の動きがすごかった	2	
感激した	1	
すご~くうれしかった	1	
時間が短かったのでまたふれあってみたいです	1	
わたしは牛を飼ってないのでとてもうれしかったです	1	
ふれあうのははじめてでした	2	
牛のボスはちょっとこわかったです	1	
きょうはほんとうにありがとうございました	11	
かわいかった	3	
おもしろかった	1	
牛が温かかったよ	2	
またさわりたいよ	2	
牛の気持ちがようわかりました	1	
牛をさわったら温かくて気持ちよかったのでびっくりしました	1	
牛がふかふかしていた	1	

ふれあい体験交流会 二島小学校(10月31日児童生徒等子供向け)

1. 学年 男 女 年齢()	人数	%
小2 男 年齢(7~8)	8	30.8%
女 年齢(7~8)	18	69.2%
計	26	
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)	人数	%
放牧の話	16	27.1%
子牛とのふれあい	25	42.4%
和牛の身体測定	14	23.7%
その他	4	6.8%
計	59	
その他の内訳		
うんこにさわった	2	
牛のしもん採り	1	
牛をいらった	1	
3. 牛とふれあってどうでしたか。(3つまで)	人数	%
初めて牛に触った	15	18.5%
気持ちよさそうにしていた	9	11.1%
気持ち悪かった	0	0.0%
牛の気持ちがわかった	8	9.9%
臭かった	1	1.2%
またしてみたい	14	17.3%
汚かった	0	0.0%
「いのち」の大切さを感じた	11	13.6%
温かかった	14	17.3%
牛も人間も同じだと思った	3	3.7%
優しかった	5	6.2%
その他	1	1.2%
計	81	
その他の内訳		
良かった	1	
4. このような体験は初めてですか。	人数	%
初めて	19	73.1%
2回目	4	15.4%
3回以上	3	11.5%
計	26	
5. 今日の体験に参加されていかがでしたか。	人数	%
やって良かった	19	25.0%
またやりたい	17	22.4%
期待はずれだった	2	2.6%
疲れた	6	7.9%
予想以上に良かった	13	17.1%
もうやりたくない	1	1.3%
楽しかった	18	23.7%
その他	0	0.0%
計	76	
その他の内訳		
6. 今日の時間割はどうでしたか。	人数	%
ちょうど良かった	17	58.6%
時間が短かった	10	34.5%
時間が長すぎた	1	3.4%
説明の時間が長すぎた	0	0.0%
その他	1	3.4%
計	29	
その他の内訳		
もう少し長くても良かった	1	

ふれあい体験交流会 二島小学校(10月31日児童生徒等子供向け)

7. 配られた印刷物についてはいかがでしたか。	人数	%
よくわかった	22	78.6%
むつかしかった	2	7.1%
まあまあわかった	1	3.6%
よくわからなかった	2	7.1%
その他	1	3.6%
計	28	
その他の内訳		
保健室に行っていたから(よく分からなかった)	1	
8. こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)	人数	%
赤ちゃんを産む瞬間を見たかった	3	
乳搾り	7	
牛に乗る	5	
まだ牛をさわっていたかった	7	
また牛とふれあいをしたい	2	
牛との写真をもっと撮りたい	1	
野島のおっちゃんとしゃべりたかったです	3	
もっと牛の近くでいらいたかった	1	
牛がうんちをするときしっぽを上げる瞬間が見たかった	1	
牛と友達になりたかった	1	
牛ともっと遊びたかった	1	
牛と競争したかったです	1	
エサやり	2	
エサを食べているところを見たい	1	
牛がも～ってないところを見たい	1	
うんちをもう一回投げたい	2	
うんちをさわりたい	1	
9. 全体の感想	人数	%
またこのような体験がしたい	5	
全然恐くなかった	1	
耳が長かった	1	
わたしはこんどから、にくを、うしのことを思ってたべます	1	
もうちょっとさわりたいかった	4	
楽しかった	8	
普段できない体験だった	1	
初めての体験だった	2	
牛をさわられて良かった	4	
子牛を初めて見た	1	
牛の大きさに驚いた	1	
牛は温かかった	2	
牛が大好きになった	1	
もうちょっと牛と仲良くなりたかった	2	
もうちょっと話を聞きたかった	1	
野島のおっちゃんと仲良くなった	1	
牛がかっこよかった	1	
牛も人も心があれば、牛も人も生きているんだ	1	
最初恐かったけど、さわったら恐くなくなった	1	
牛はふわふわしていた	2	
子牛と遊びたい	1	
また牛に会いたい、また来てください	1	
牛にすごく乗りたい、乗ると牛が興奮して突進してくるかもしれないから	1	
牛の食べる場所も見たい	1	
大人になったら牛を飼いたいと思った	1	
牛の生まれるところを見たい	1	

ふれあい体験交流会 二島小学校(10月31日児童生徒等子供向け)

1. 学年 男女 年齢()		人数	%
小5	男 年齢(10~11)	8	47.1%
	女 年齢(10~11)	9	52.9%
計		17	
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)		人数	%
放牧の話		10	29.4%
子牛とのふれあい		17	50.0%
和牛の身体測定		7	20.6%
その他		0	0.0%
計		34	
その他の内訳			
3. 牛とふれあってどうでしたか。(3つまで)		人数	%
初めて牛に触った		4	7.8%
気持ちよさそうにしていた		2	3.9%
気持ち悪かった		0	0.0%
牛の気持ちがわかった		3	5.9%
臭かった		1	2.0%
またしてみたい		6	11.8%
汚かった		0	0.0%
「いのち」の大切さを感じた		13	25.5%
温かかった		14	27.5%
牛も人間も同じだと思った		4	7.8%
優しかった		4	7.8%
その他		0	0.0%
計		51	
その他の内訳			
4. このような体験は初めてですか。		人数	%
初めて		9	56.3%
2回目		6	37.5%
3回以上		1	6.3%
計		16	
5. 今日の体験に参加されていかがでしたか。		人数	%
やって良かった		9	40.9%
またやりたい		6	27.3%
期待はずれだった		0	0.0%
疲れた		0	0.0%
予想以上によかった		4	18.2%
もうやりたくない		0	0.0%
楽しかった		2	9.1%
その他		1	4.5%
計		22	
その他の内訳			
すごく楽しかった		1	
6. 今日の時間割はどうでしたか。		人数	%
ちょうど良かった		9	52.9%
時間が短かった		8	47.1%
時間が長すぎた		0	0.0%
説明の時間が長すぎた		0	0.0%
その他		0	0.0%
計		17	
その他の内訳			
7. 配られた印刷物についてはいかがでしたか。		人数	%
よくわかった		12	70.6%
むつかしかった		1	5.9%
まあまあわかった		2	11.8%
よくわからなかった		0	0.0%

ふれあい体験交流会 二島小学校(10月31日児童生徒等子供向け)

その他	2	11.8%
計	17	
その他の内訳		
すごく分かった	2	
8.こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)	人数	%
牛に乗ってみたい	2	
エサをやってみたい	11	
ブラッシング	9	
牛にミルクをあげてみたい	3	
牛の心臓の音を聞いてみたい	1	
乳搾りをしたい	5	
牧場訪問	1	
牛の身体測定	2	
牛を乗せる車の中が見たかった	1	
牛を抱いてみたかった	1	
オスの牛とふれあいたい	1	
9.全体の感想	人数	%
命の大切さがわかった	4	
牛が草を食べ、その糞が肥料になるのだから一石二鳥だと思った	1	
今日は本当にありがとうございました	9	
初めて牛にさわった	2	
はじめは恐かったけどさわってみると恐くなかった	2	
牛はかわいかった	1	
また牛にさわりたい	6	
牛にさわられて良かった	5	
こんな体験があってすごく嬉しい	1	
牛にふれて心のあたたまりを感じた	2	
牛は温かかった	5	
牛も人間もいっしょだと思った	2	
牛は大きかった	1	
牛の毛は気持ちよかった	4	
牛は頭が良いのだと思った	1	
もっと牛のことが知りたいので牛のことを勉強したい	2	
牛のことをよく知ることができた	2	
野島さんなど皆さんの話はわかりやすかった	2	
生産量が減っている中、二島で育てられている牛を大切にしていきたいと思った	1	
牛の体温は人間より高いのに驚いた	3	
生まれてすぐ角を抜いてしまうのに驚いた	1	
前歯がないのに驚いた	2	
胃が4つあるのに驚いた	2	
牛を飼っている理由がわかって良かった	1	
牛の体重が600kgもあるとは知らなかった	1	
今度は生まれたばかりの子牛も抱いてみたい	1	
牛は頭が良くて、痛いと思ったらもうしないというのがすごい	1	
牛は健康で、風邪をひかないのがすごい	1	
色々書いてあるファイルをもらえてうれしい	1	
2年生がふんを投げたりして汚かった	1	
牛のつなを持てて楽しかった	1	
牛がエサを食べたあとごろっとするのは必要なことだと知った	1	
牛が立っているときはつま先立ちと知って驚いた	1	
これから、命の大切さを感じて食べたい	1	
角のある牛も、ない牛もいることを初めて知った	1	

ふれあい体験交流会 二島小学校(10月31日保護者向け)

1. 性別と年齢をお答え下さい。		人数	%
男	20代	0	0.0%
	30代	0	0.0%
	40代	0	0.0%
	50代	0	0.0%
	60代以上	0	0.0%
女	20代	0	0.0%
	30代	1	50.0%
	40代	1	50.0%
	50代	0	0.0%
	60代以上	0	0.0%
計		2	
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)		人数	%
放牧の話		1	33.3%
子牛とのふれあい		2	66.7%
和牛の身体測定		0	0.0%
その他		0	0.0%
計		3	
その他の内訳			
3. 畜産体験をご覧になった感想をお聞きます。(3つまで)		人数	%
こどもが楽しんでいた		2	40.0%
自分もしてみたかった		2	40.0%
つまらなかった		0	0.0%
試食がおいしかった		0	0.0%
またしてほしい		1	20.0%
もうさせたくない		0	0.0%
その他		0	0.0%
計		5	
その他の内訳			
4. 生産者や関係者の話についての感想を聞かせてください。(3つまで)		人数	%
放牧のことが理解できた		1	33.3%
もっと話が聞いてみたい		2	66.7%
まだよくわからないことがある		0	0.0%
時間がなかった		0	0.0%
放牧の意味が理解できない		0	0.0%
つまらなかった		0	0.0%
消費者の要望も聞く交流会をしたい		0	0.0%
その他		0	0.0%
計		3	
その他の内訳			
5. 牧場体験や加工体験のイベントがあれば参加しますか？		人数	%
する		2	100.0%
しない		0	0.0%
そのときになって考える		0	0.0%
内容による		0	0.0%
その他		0	0.0%
計		2	
その他の内訳			
7. 全体を通しての感想をお願いします。		人数	%
放牧は身近に目にしていましたが、妊娠している雌牛を放牧しているなど、知らないことが多く、親も勉強になりました。1回で終わるのではなく、また継続してやってほしいです。			

二島小学校 ふれあい体験交流会（10月31日教育関係者向け）

<参加しての感想>

今回のふれあい体験では、指導する教師の感動するほどの場を計画的に設定して下さった、多くの関係者の皆様に変な感謝申し上げます。「百聞は一見にしかず」、今、絵本やテレビ、インターネットなどで牛についての情報はいくらでも得ることはできますが、直接体験でしか得られないすばらしい感動をいただきました。二島小では初めての体験活動でしたが、子どもたちや教師や保護者にとっても、ふるさと二島一生の思い出となり、時々ふっと頭にうかんで来て、あたたかい気持ちになると思います。

普段接することのない牛とふれあえ、鼻紋をとったり、さあって温かさを感じたり、とても貴重な体験だったと思います。なぜ田んぼに牛が放牧されているかなど知識の面でも丁寧に説明していただき、児童も牛について理解できたと思います。有難うございました。

子ども同様、「牛ってなんてかわいいんだらう、なんてあたたかいのだらう」と素直に感じました。二年の生活部の学習で「二島探検」の折、放牧されている牛を遠くから眺めて、「なんでここにおるんかねえ、なんて話していたところだったので、とてもちょうどよく、二島のよさをさらに知る良い機会になりました。

絵や文、写真を通して得た知識だけで「牛を知っている」と思いこんでいた...と気づいた児童も多いのではないのでしょうか。わたし自身は、幼少の頃、祖母の家にはいた牛にふれたことはありましたが、その後ずっと牛にふれることはなかったもので、「本物の牛はこんなにも温かく、瞳がきれいだったのだ」ということを思い出しました。牛にふれて何だか心がほっかりしました。

<よかったこと>

牛とふれあい、牛の体温を感じ、牛に親しみが持てるようになったこと

無角牛に大変興味を持ち、その力強さを感じる一方、優しい牛たちともふれあい、今まで以上に牛に関心を持ったこと

牛の役割など、知識の面でも得るものが多くあった

この体験が他の動物とも優しくできるきっかけになっていくと思う

牛にふれるのがこわいと感じていた子どもたちが「かわいい」とか「もっと遊びたい」という感想を持っていたこと。「できない」と思っていたことが「できた」喜びを味わっていました！！

自分の故郷である二島が、牛も心地よくくらす素敵なおとこであることに気づけた

実際に牛にふれたり、現地で説明を聞いたりしたことは、子どもたちにとって生の体験であり、原体験となるのではないかと、思います。ふるさと二島の地で行われている放牧は、未来を見据えての取り組みだということを知り、自分と地域のつながりを感じることができたと思います

<課題と感ること>

牛や放牧の話、鼻紋、身体測定、心音を聞く、ブラッシングと体験してみたい事は多々ありますが、時間に限りがあり、児童全員がすべてを体験することは難しいように思いました。今回は昼休みもモーモースクールを開いていただきまして幸せでしたが人数の多い学校では体験できる子が限られるのではないかと思いました

<その他、意見など>

実際に「ふれる」「見る」「聞く」ことが、子どもたちにとって、どれだけ印象的な体験になるか痛感しました。スペシャリストの皆さんに教えていただくことはどれもこれも新鮮でした

牛のうんちフリスビーは、私たちにはセンセーショナルな遊びでしたが、子どもは大喜び。これまた貴重な体験でした。皆さんありがとうございました、心より感謝いたします

牛も遠くで眺めるのではなく間近で見て、ふれるという体験はとてインパクトが強く、子どもたちの心に「生きている」ということや「命」ということを訴えかけるものだと思います。貴重な体験をさせていただき、本当に有難うございました

ふれあい体験交流会 福川こどもクラブ(11月8日児童生徒等子供向け)

1. 学年 男 女 年齢()			人数	%
小6	男	年齢(11~12)	2	28.6%
	女	年齢(11~12)	0	0.0%
小5	男	年齢(10~11)	1	14.3%
	女	年齢(10~11)	0	0.0%
小4	男	年齢(9~10)	0	0.0%
	女	年齢(9~10)	1	14.3%
小3	男	年齢(8~9)	0	0.0%
	女	年齢(8~9)	0	0.0%
小2	男	年齢(7~8)	2	28.6%
	女	年齢(7~8)	1	14.3%
小1	男	年齢(6~7)	0	0.0%
	女	年齢(6~7)	0	0.0%
計			7	100.0%
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)			人数	%
		牛の身体測定	1	5.9%
		牛の音を聞く	1	5.9%
		牛にふれる	3	17.6%
		竹の加工	4	23.5%
		山本さんのお話し	3	17.6%
		野外調理	3	17.6%
		里山探検(山の作業)	2	11.8%
		その他	0	0.0%
計			17	100.0%
		その他の内訳		
3. 牛とふれあってどうでしたか。(3つまで)			人数	%
		初めて牛に触った	1	5.9%
		気持ちよさそうにしていた	4	23.5%
		気持ち悪かった	0	0.0%
		牛の気持ちがわかった	2	11.8%
		臭かった	0	0.0%
		またしてみたい	3	17.6%
		汚かった	0	0.0%
		「いのち」の大切さを感じた	2	11.8%
		温かかった	3	17.6%
		牛も人間も同じだと思った	1	5.9%
		優しかった	0	0.0%
		その他	1	5.9%
計			17	100.0%
		その他の内訳		
		毛皮みたいだった	1	
4. 竹を使って食器を作ったり、ごはんを炊いたりした感想はどうでしたか?			人数	%
		初めてでおもしろかった	3	13.6%
		家でもしてみたい	3	13.6%
		できたのでうれしかった	3	13.6%
		あまりおいしくなかった	0	0.0%
		楽しかった	6	27.3%
		もうしたくない	0	0.0%
		おいしかった	2	9.1%
		つまらなかった	0	0.0%
		また来てしてみたい	5	22.7%
		その他	0	0.0%
計			22	100.0%
5. このような里山体験への参加は初めてですか。			人数	%
		初めて	2	28.6%
		2回目	5	71.4%
		3回以上	0	0.0%

ふれあい体験交流会 福川こどもクラブ(11月8日児童生徒等子供向け)

計	7	100.0%
6. 今日の交流会に参加されていかがでしたか。	人数	%
来て良かった	4	25.0%
また来たい	4	25.0%
期待はずれだった	1	6.3%
疲れた	0	0.0%
予想以上によかった	3	18.8%
もう来たくない	0	0.0%
楽しかった	4	25.0%
その他	0	0.0%
計	16	100.0%
その他の内訳		
7. 今日の時間割はどうでしたか。	人数	%
ちょうど良かった	6	75.0%
時間が短かった	2	25.0%
時間が長すぎた	0	0.0%
説明の時間が長すぎた	0	0.0%
その他	0	0.0%
計	8	100.0%
その他の内訳		
8. 配られた印刷物についてはいかがでしたか。	人数	%
よくわかった	2	50.0%
むつかしかった	1	25.0%
まあまあわかった	0	0.0%
よくわからなかった	0	0.0%
その他	1	25.0%
計	4	100.0%
その他の内訳		
配られていない	1	
9. こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)	人数	%
木を植えたい	2	
生き物の秘密をもっと知りたい	1	
山の秘密をもっと知りたい	1	
松の伐採	3	
ロッククライミング	1	
山登り	1	
牛の乳が搾りたかった	1	
牛の様子をもっと見たかった	1	
体を動かす	1	
探検	1	
キャンプ	1	
牛のお世話	1	
鶏のお世話	1	
10. 全体の感想	人数	%
鳥の気持ちや生き物の気持ちが分かった	1	
鶏を絞めるのがすごかった	1	
ご飯がすごくおいしかった	1	
全部おもしろかった	1	
牛のこと、山のこと知れてうれしかった	1	
2回目になったけど、それでもおもしろかった	1	
牛が道を作るなんてすごい	1	
人間の命も動物の命も大切にしないといけないと思いました	1	

ふれあい体験交流会 福川こどもクラブ (11月8日児童向け・子供会オリジナルのもの)

1. 今日一番楽しかったことは何ですか？
ニワトリを絞めて、肉にしたこと
ごはんづくり
田んぼで鬼ごっこ
野菜をとる
火おこし、まきわり
竹の加工
野菜を切ったり、竹を切ったりすること
竹の食器作り
竹からみんなが食べるためのお皿を作ったこと
里山体験、みんなでごはんをつくったこと
野外炊事で、あんなにたくさんの料理があるなんて思ってもいなかったし、新鮮なニワトリを使っていてとてもおいしかったです
バーベキュー
2. 今日一番がんばったことは何ですか？
竹串作り
ごはんづくり
山を下りるとき
火おこし、まきわり
山の探検とか、ニワトリを殺すのを必死にこらえた
竹の食器作り
ニワトリの最後をきちんと見た！感謝の心をいただきました
竹を切る
後かたづけ
じめじめしていたため、火おこしのときに、火を維持したり、大きくするのが大変だった
ニワトリをさばいているいろいろな部位に分けること
野外炊飯で使った鍋のすす落とし！ほめられてうれしかった！
3. こんどまた野外炊飯をしたらどんなことに気をつけたいですか？
お肉を食べれるところだけを焼くこと
竹串の下の方に小刀をやったらいいと思いました。
牛肉
なるべく地元のもの食べる
竹の器、すりばりを立たせないようにでっぱりをなくす
鳥、丁寧に、大切に食べる
お肉の生産地などももっと気にしたいと思う。国産のものをできるだけ選びたい
野菜を日本産のものにする。感謝の気持ちを忘れない
肉牛のいろいろな部位の食べ比べをするといいかも
肉について、生きている動物を自分たちが食べるために、その命をもらうのだから、できる限り無駄がないように使わないといけないなと実感した
ナイフの使い方を習ったので、次はもっと細かい竹細工をしてみたい
ありがたい気持ちを持ちたい
4. 今日初めて知ったことや、特に心に残ったことは何ですか？
自然に優しいことをすること
自然を大切にすること
牛がほとんど道や自然を作っているのが分かった
ふるさと牧場の循環の仕組み
牛に秘密が色々あった
牛が森を育てていること
生き物の食の循環のすごさを知った。ニワトリのおなかの中の仕組みを知った。食べることってすごいんだと改めて思った
ニワトリのさばき方
生きていくためには食べ物が必要だなと思った。自給自足はいいな、森林はすごいなと思った
鼻紋の話や、雄と雌の名前のつけかたの違いとか非常におもしろかった。また、話を聞きたい
牛を里山に放すことでうまく共生していてすごいなと思った。狭い牛舎に入れたままにするのではなくて、里山に放すことで、牛にかかるストレスのこともちゃんと考えてあるんだと感じた
牛との共生
牛を売るときに、鼻の印をつける

ふれあい体験交流会 福川こどもクラブ(11月8日指導者向け)

1. 性別と年齢をお答え下さい。		人数	%
男	10代	0	0.0%
	20代	1	12.5%
	30代	2	25.0%
	40代	0	0.0%
	50代	0	0.0%
	60代以上	0	0.0%
女	10代	2	25.0%
	20代	2	25.0%
	30代	1	12.5%
	40代	0	0.0%
	50代	0	0.0%
	60代以上	0	0.0%
計		8	100.0%
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)		人数	%
牛の身体測定		0	0.0%
野外炊飯		7	33.3%
竹の加工		3	14.3%
里山探検		4	19.0%
生産者のお話		3	14.3%
その他		4	19.0%
計		21	100.0%
その他の内訳			
ニワトリの解体		2	
鼻紋を採ったこと		1	
牛に餌をあげたこと		1	
3. 野外体験をした感想をお聞きます。(3つまで)		人数	%
初めてで楽しかった		3	16.7%
家でもしてみたい		1	5.6%
できたので楽しかった		1	5.6%
あまりおいしくなかった		0	0.0%
楽しかった		5	27.8%
つまらなかった		0	0.0%
おいしかった		6	33.3%
もうしたくない		0	0.0%
またしてみたい		2	11.1%
その他		0	0.0%
計		18	100.0%
その他の内訳			
4. 生産者のお話についての感想を聞かせてください。(3つまで)		人数	%
生産者の気持ちが理解できた		6	40.0%
もっと話を聞いてみたい		6	40.0%
まだよくわからないことがある		2	13.3%
時間がなかった		1	6.7%
生産者の言い分が理解できない		0	0.0%
つまらなかった		0	0.0%
消費者の要望も聞いてほしい		0	0.0%
その他		0	0.0%
計		15	100.0%
その他の内訳			
5. このような里山体験への参加は初めてですか。		人数	%
初めて		4	50.0%
2回目		3	37.5%
3回以上		1	12.5%
計		8	100.0%
6. 今日の交流会に参加されていかがでしたか。		人数	%
来て良かった		7	50.0%
また来たい		5	35.7%

ふれあい体験交流会 福川こどもクラブ(11月8日指導者向け)

子どもが喜んだ	2	14.3%
疲れた	0	0.0%
予想以上に清潔だった	0	0.0%
もう来ない	0	0.0%
楽しかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
計	14	100.0%
その他の内訳		
7. 牧場体験や加工体験ができる農場は必要だと思いますか？	人数	%
必要	8	100.0%
必要ない	0	0.0%
内容による	0	0.0%
その他	0	0.0%
計	8	100.0%
その他の内訳		
8. いま、一番知りたい畜産の情報は何か。(3つまで)	人数	%
牛肉の生産	1	
牛の出産について	1	
放牧のメリット、デメリット	1	
牛の流通に関して(どうやって食卓に上がるか?)	1	
鳥インフルエンザの対策	1	
地産地消の動向	1	
流通や販売のこと	1	
飼育時の話	1	
牛のエサの内容	1	
種付けから出荷までの流れと、現在の工夫や課題	1	
生産者の畜産への思い	1	
お米の生産	1	
牛のこと	1	
ニワトリのこと	1	
9. 全体を通しての感想をお願いします。	人数	%
ニワトリを絞めて、さばくことを初めて見て、やった。はじめはとまどったが、実際に食べるために殺す現場を見て、食べれることのありがたみを実感した	1	
生きたニワトリを解体して食べたことは非常に重要な体験だったと思う。生物が命を食べて生きているんだということを心で理解できた	1	
ニワトリの解体は勉強になった。食のありがたみを感じながら食べるようにした	1	
普段できない体験をさせてもらって非常に楽しませてもらった	1	
生活の中で身近なものや親しんでいる食べ物について、加工や生産の実態を知らない子どもたちが増えている。町に住む大人たちも、そのことから目をそらしている。そういった実態から、「これでいいのか？」という疑問を持つ人もこれから出てくると思う。そうしたとき、きちんと体験ができたり、話が聞けたりする場所があれば、と思う。今日はとても貴重な体験をさせてもらった。子どもの数が少なかったので、逆に一人一人、多くの体験ができたことと思う。将来この経験がきっと役に立つのではないだろうか	1	
野外炊飯の準備や子どもたちへの刃物の使い方の指導等、大変ありがとうございました。おかげさまで、子どもたちも大満足で楽しみ、安全に終わることができました。また、牛の作った道を歩いたことがとても子どもたちの印象に残ったようで、山本さんが牧場で実践されていることを体験としてより身近に感じることができたようです	1	
初めての体験ばかりでどきどきしたけど、いろんなことを知ることができた。日頃できない貴重な体験ができたと思う。また、こういう体験をしたい	1	
今日は本当に楽しかった。普段できない体験がいっぱいでき、いろんなことが学べた。また行きたい	1	

ふれあい体験交流会 ふるさと牧場 (11月22日児童生徒等子供向け)

	女 年齢(11~12)		0	0.0%
小5	男 年齢(10~11)		0	0.0%
	女 年齢(10~11)		3	23.1%
小4	男 年齢(9~10)		1	7.7%
	女 年齢(9~10)		0	0.0%
小3	男 年齢(8~9)		0	0.0%
	女 年齢(8~9)		3	23.1%
小2	男 年齢(7~8)		0	0.0%
	女 年齢(7~8)		3	23.1%
小1	男 年齢(6~7)		1	7.7%
	女 年齢(6~7)		2	15.4%
計			13	100.0%
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)			人数	%
	牛のえさやり		4	12.9%
	牛の身体測定		2	6.5%
	牛の音を聞く		0	0.0%
	子牛とのふれあい		1	3.2%
	竹の加工		9	29.0%
	山本さんのお話し		0	0.0%
	お昼ごはんづくり		6	19.4%
	山の牛を探す		8	25.8%
	その他		1	3.2%
計			31	100.0%
その他の内訳				
お友達と遊んだり、ケーキを食べたりが良かった			1	
3. 牛とふれあってどうでしたか。(3つまで)			人数	%
	初めて牛に触った		4	12.9%
	気持ちよさそうにしていた		4	12.9%
	気持ち悪かった		0	0.0%
	牛の気持ちがわかった		1	3.2%
	臭かった		2	6.5%
	またしてみたい		1	3.2%
	汚かった		0	0.0%
	「いのち」の大切さを感じた		5	16.1%
	温かかった		8	25.8%
	牛も人間も同じだと思った		2	6.5%
	楽しかった		4	12.9%
	その他		0	0.0%
計			31	100.0%
その他の内訳				
4. 竹を使って食器を作ったり、ごはんを炊いたりした感想はどうでしたか?			人数	%
	初めてでおもしろかった		7	17.9%
	家でもしてみたい		7	17.9%
	できたのでうれしかった		3	7.7%
	あまりおいしくなかった		0	0.0%
	楽しかった		11	28.2%
	もうしたくない		0	0.0%
	おいしかった		4	10.3%
	つまらなかった		0	0.0%
	また来てしてみたい		6	15.4%
	その他		1	2.6%
計			39	100.0%
その他の内訳				
思ったように小刀を使えなかった			1	

ふれあい体験交流会 ふるさと牧場（11月22日児童生徒等子供向け）

5.このような交流会への参加は初めてですか。	人数	%
初めて	4	36.4%
2回目	0	0.0%
3回以上	7	63.6%
計	11	100.0%
6.今日の交流会に参加されていかがでしたか。	人数	%
来て良かった	10	55.6%
また来たい	2	11.1%
期待はずれだった	0	0.0%
疲れた	0	0.0%
予想以上によかった	1	5.6%
もう来たくない	0	0.0%
楽しかった	4	22.2%
その他	1	5.6%
計	18	100.0%
その他の内訳		
牛のことがよく分かった	1	
7.今日の時間割はどうでしたか。	人数	%
ちょうど良かった	13	100.0%
時間が短かった	0	0.0%
時間が長すぎた	0	0.0%
説明の時間が長すぎた	0	0.0%
その他	0	0.0%
計	13	100.0%
その他の内訳		
8.配られた印刷物についてはいかがでしたか。	人数	%
よくわかった	6	54.5%
むつかしかった	1	9.1%
まあまあわかった	3	27.3%
よくわからなかった	0	0.0%
その他	1	9.1%
計	11	100.0%
その他の内訳		
リアルだった	1	
9.こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)	人数	%
オープン料理	1	
デザート作り	1	
牛のエサやり	1	
おもちづくり	1	
遊ぶものを作りたかった	3	
大人の牛にさわりたいかった	2	
もっと牛と仲良くなりたかった	1	
乳搾り	1	
子牛にミルクを飲ませる	1	
おかしづくり	1	
スープ作り	1	
バーベキュー	1	
他の小動物とのふれあい	1	
お団子作り	1	
10.全体の感想	人数	%
すごく楽しかったです。特にお昼ごはん、いろいろなものを切るところからできたのはうれしかったです。お肉もすごくおもしろかったです。	1	
竹を使ったりしているいろいろなものを作ったのが楽しかった	1	

ふれあい体験交流会 ふるさと牧場（11月22日保護者向け）

1. 性別と年齢をお答え下さい。	人数	%
20代	1	11.1%
30代	4	44.4%
40代	3	33.3%
50代	1	11.1%
60代以上	0	0.0%
計	9	100.0%
2. どの体験が良かったですか。(3つまで)	人数	%
牛のえさやり	2	9.5%
牛の身体測定	1	4.8%
牛の心音を聞く	0	0.0%
ごはん炊き	4	19.0%
竹の加工	6	28.6%
里山探検	5	23.8%
生産者のお話・意見交換	1	4.8%
その他	2	9.5%
計	21	100.0%
その他の内訳		
バーベキュー、ケーキ作り、食器作り	1	
ケーキ作り、焼き肉、もつ鍋	1	
3. 手作り体験をした感想をお聞きます。(3つまで)	人数	%
初めてで楽しかった	4	18.2%
家でもしてみたい	1	4.5%
できたので楽しかった	4	18.2%
あまりおいしくなかった	0	0.0%
楽しかった	3	13.6%
つまらなかった	0	0.0%
おいしかった	6	27.3%
もうしたくない	0	0.0%
またしてみたい	4	18.2%
その他	0	0.0%
計	22	100.0%
その他の内訳		
4. 生産者との意見交換についての感想を聞かせてください。(3つまで)	人数	%
生産者の気持ちが理解できた	5	45.5%
もっと話を聞いてみたい	4	36.4%
まだよくわからないことがある	1	9.1%
時間がなかった	0	0.0%
生産者の言い分が理解できない	0	0.0%
つまらなかった	0	0.0%
消費者の要望も聞いてほしい	0	0.0%
その他	1	9.1%
計	11	100.0%
その他の内訳		
大切に育てているのが分かった	1	
5. このような体験への参加は初めてですか。	人数	%
初めて	4	44.4%
2回目	1	11.1%
3回以上	4	44.4%
計	9	100.0%
6. 今日の交流会に参加されていかがでしたか。	人数	%
来て良かった	8	30.8%
また来たい	6	23.1%
子どもが喜んだ	4	15.4%

ふれあい体験交流会 ふるさと牧場（11月22日保護者向け）

1. 性別と年齢をお答え下さい。	人数	%
疲れた	1	3.8%
予想以上に清潔だった	0	0.0%
もう来ない	0	0.0%
楽しかった	5	19.2%
その他	2	7.7%
計	26	100.0%
その他の内訳		
トイレが使いやすくて良かった	1	
お兄ちゃんも連れてくれば喜んだと思う	1	
7. 牧場体験や加工体験のイベントがあれば参加しますか。	人数	%
する	7	70.0%
しない	0	0.0%
そのときになって考える	2	20.0%
内容による	1	10.0%
その他	0	0.0%
計	10	100.0%
その他の内訳		
8. いま、一番知りたい畜産の情報は何ですか。(3つまで)	人数	%
お肉の添加物、どんな肉にどのくらい入っているのか		
スーパーにあるお肉が、何日たっているのが気になる		
9. 全体を通しての感想をお願いします。	人数	%
<p>いろんな方の話が聞けて楽しかったです。普段知り合うことのない人たちと、このような場で交流が持てて良かったです</p> <p>あっという間に時間が過ぎました。牛の説明もわかりやすくて、お世話もしていただいて、スムーズに進みましたし、食事もとてもおいしかったです。子どもも初めてのことが多かったのも、また参加してみたいです。ありがとうございました</p> <p>すべての作業が家ではなかなかできないことなので子どもも親もいい勉強になりました。こんにゃくも肉もとてもおいしかったです！！</p> <p>もつが大好きなので、たくさん食べれてうれしかったです。椎茸やこんにゃくも手作りでおいしかったです。参加者のお母さんがすすんでケーキを作ったり、絵本を読んでくださったりと、自発的にされているのが素晴らしいと思います。山本さんご夫婦もほのぼのとされていて、こういう人生は素晴らしいと思います。</p> <p>雄の親牛の話は驚きました。竹細工も楽しくて、もつ鍋もすごくおいしかったです。日頃、子どもに小刀などを使わせていないのに、指導を受けると意外に上手に削ったりしているので、いい経験をさせてもらったなと感謝しています。</p> <p>今日はいつもと違ったメンバーの方と出会えて、いろいろなお話ができ、とても楽しかったです。みんなで作った食事大変おいしく、竹で作った食器も上手にできました</p> <p>とても楽しかったです。有難うございました</p>		

第2回地域畜産ふれあい体験交流活性化シンポジウム（H20年11月21～22日）

このシンポジウムは、11月21日（金）16～18時、ホテルみやけにおいて、（社）中央畜産会が開催しました。全国でふれあい体験事業に取り組んでいる27県のうち16県の参加があり、山口県から「ふるさと牧場」代表山本喜行氏が「ふるさと牧場におけるふれあい体験交流の取組み」と題した基調講演を行い、その後、『受入牧場を増やし、ふれあい体験交流活動を効果的に進めるには』をテーマにパネルディスカッションが行われました。

パネラーには、山本氏の他に「やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議」委員である小泉氏と吉富氏にそれぞれ教育者、消費者の立場から参加していただきました。

<パネラー>	山口県山陽小野田市立陶小学校栄養教諭	小泉 眞理子氏
	山口県消費者団体連絡協議会会長	吉富 崇子氏
	山口県防府市ふるさと牧場代表	山本 喜行氏
	山口県畜産振興協会指導部次長	清水 誠

各人のこれまでの係りと想いを紹介（敬称略）

小泉：畜産については素人だが、ふれあい体験の受入側の視点からお話しできることがあるのではないかと思います。具体的には小学校でのふれあい体験の実施、受入がどうしたら可能かということ、大嶺小学校（前任校）での実施経験からお話ししたいと思います。

こうした活動を進める上で出てくる問題の一つが、こうしたプログラムを学校になかなか受け入れてもらうのは難しいという現状です。これは学校サイドでカリキュラムが組まれるために、飛び込みでは受け入れてもらえないという事情によるもので、前年度の2月頃にはもう次年度のプログラムが学校側できあがってしまっているのです。ここに割って入って時間を作ってもらおうというのは簡単ではありません。こうした体験プログラムを学校相手に実施しようと思うのであれば、もう今ぐらい、11月にはその計画を学校側にアピールしていく必要があります。教師はたいへんすごく忙しく、ヒマがないので、DVD等の見やすい資料を作成していただけたらすれば、すごくありがたいです。私自身の経験では大嶺小学校での実施にあたって多くの人達に協力してもらってどうにか事業を行うことができた、という感じがあります。

ふれあい体験を子どもたちにさせることの効果については、すごいものがあり、小学校での体験以降子どもたちの牛乳や食に対する姿勢が変化しました。例えば、牛乳は冷えているものだと思っていた子もいたのですが、その子は牛から出てくる牛乳は実は温かいのだということを知りました。クラス全体で、牛乳の飲み残し、給食の食べ残しがずいぶん減りました。みんな実際に牛にふれ、牛乳がどうやってできるのかを知ったことにより、命の大切さを肌で学んだのだと思います。命にふれたときの子どもたちの目の輝きはすごいものがあります。やはりそれを見て私

たち大人も、ああ、やってよかったなあと感じます。

子どもにとっては現地に行って実際に見るだけでも、印象に残るものがあります。初めは、なにかおいしいものが食べられるということに期待していた子どもたちでも、命にふれたことが結果として最も印象強く残っていたりします。また、子どもが小さければ小さいときほどこうした経験は大切だと思います。できれば小5の子より、小1の子に体験させてあげたいですね。

ふれあい体験の準備をしてくださった皆さん、畜産農家の方々には、ふれあい体験の現場に着くまでにかかなりの苦労があるはずだと思います。そうした舞台裏のことも、また後日、出前授業等で補足説明していただければ、一回で終わるものではなく、つながる事業になりますので、ぜひそこまでしていただいて、やはり一回きりではなく継続してもらいたいと思います。大嶺では実際に、カリキュラムにふれあい体験を組み込むときに、私がこれは子どもたちにとって必要な事業であるから、その年だけではなく、数年継続して行ってもらいたいと無理を言って、継続する前提で事業を始めました。

ふれあい体験を行ってみると、実際に牧場に行ってみたいと言い出す子どもたちもいます。しかし、子どもたちを受け入れてくれるふれあい牧場がどこにあるのか、認知している先生はそういないと思います。これには子どもの成績が良ければそれで良いというような、学校側が関心を示さない成績至上主義の風潮の問題もあろうかと思いますが。事業をスムーズに行う上で信頼関係の結びやすい農家さん、プロフェSSIONALの方々を学校サイドが認知する必要がありますので、畜産サイドからはもっとアピールをしていただきたいですね。なかなか教育関係者が関心を示さないという意見もあるかと思いますが、プライベートで子どもを連れてふれあい体験等に参加する先生もけっこういますので、そのときすかさず捕まえてみてください。

最後になりますが、私はこうした事業がもっともっとあちこちの学校、地域で広まって、牛や羊などの動物と、命にふれたときのあの子どもたちの目の輝きがもう一度見たいと考えています。体験から学べる道徳というものがあると思います。吉富：私たちの団体は、地域に根ざした消費活動を行っています。私たちのスローガンは「資源を大切にしよう」、「地産地消をすすめよう」等を掲げており、安全・安心の食品を家庭で消費できるように努めています。

私たちは生産現場の人とつながることを重視しています。「品質が良い」、ということと、「安さ」ということは成り立つのでしょうか？「安さ」とらわれてはいけなと思います。消費者が何も意識せずスーパー等で売られているものを買うのではなく、自分で選択する目を持って欲しいと願います。実際に生産現場に出かけると、「これはこの価格でいいのだろうか？」と思うことがあります。生産者のみなさんがこんなに苦労しているのだということがわかれば、価格というものに関心がいきます。「安ければよい」という考え方を改めることにつながります。私たち

は、生産現場を支えるために、交流や体験を通じて「消費者として何をなすべきなのか」を常に学んでいきたいと思います。

消費者はもっと、何を選択するかということをもっと探求するべきでしょう。そのためには現場に足を運んで、見せてもらい、お話をよく聞く必要があります。消費者と農家をもっとよく話し合うべきだと思います。

この活動をもっと進めるためには受入農家さんと、できることできないことの折り合いをつける必要があります。行ってみて、あれこれ見せてもらって、体験させてもらってではその活動は続きません。例えば鳥インフルエンザが山口県で発生したときにこんなことがありました。私たちはその発生直前まで養鶏農家さんと現場を見せてもらう約束をしていましたが、このとき鳥インフルエンザが発生したので、部外者を農場に入れることはできなくなったと断られてしまいました。私はそれによって、「あ、この農場では管理がキチンとされているんだな」と思って安心したりもしました。このように消費者はあれも見たい、これも知りたい、と何でも要求だけしてはいけませんよね。ここまでは見せられる、ここからは無理、あそこは入れない、農家さんがはっきりそう言ってくださることで、私たち消費者は管理が行き届いているんだなと感じ安心できるのです。ですから、無理なことは無理と、最初に言っていたきたいと思います。

受入農家さんのお話をしますと、受入側はお金をとっても良いのではないのでしょうか。消費者としても、対価を支払わないと、いっそタダでは本当にお客さん、ゲストになってしまって、生産者の方に言いたいことが言えなくなってしまう場合があると思うんです。

私たちは大人が学ぶ団体ではありますが、大人が家庭に戻って食卓で「今日はこんな人と出会ってこんな話をしたんだよ」と子どもに伝えることで、今回のシンポジウムのテーマとも少しは関係してきますし、お役に立てる面があるのではないかな、と思います。

先ほどのお話でもありましたが、私たちとしても学校で食育の授業などをさせていただいたり、簡単な料理教室など開ければいいなあ、とよく話しているのですが、学校のカリキュラムに参加することはやはり難しいですね。

農業については、やりたい人がやるべきだと私は考えています。本当にやる気のある人がその仕事に就くのが理想でしょう。社会の構造の話になるのですが、農業で生きる道もあるのだと、若者が選ぶことのできる、選択肢の広い世の中になった方が良くと思います。

山本：私は農家側、体験を受け入れる方の立場からお話しします。まず私が言いたいのは、体験を受け入れる際に、「先出し」で良いのか？ということ。先にお金をもらって良いのか？皆さん、私は「後出し」です。はっきり言います。先にいくらのお金をいただいて、「～ちゃんああしましょう？」「～さんこうでいいかね？」なんてそれで良いのか、ということ。それは誰もがやっているこ

と、誰もがやっているのと同じことをやって良いんですか？それじゃあ改革はできないでしょう。変革を起こすってことなんだから、同じことばかりやっててもしょうがないでしょう。それで変革が起こせるわけがない。

私は、農業は夫婦でやるものではない、と考えています。農業をやるとき、妻が自分もやりたいと言いましたが、きっぱり断り、勤めをしろ、と言いました。老後の保証は必要でしょう。ですから私は奥さんを勤めに出すことで、少なくとも、奥さんの、自分の厚生年金は確保させたいんです。そうしたら私も身軽になります。身軽になった上で私がやったのは、観光牧場にしない、規模拡大はしないということです。

交流会を立ち上げるときに、人が泊まりに来ればふとんがいる。きちんとしまっていたのをひっぱりだしてこにゃいかん。帰れば干さにゃいかん。弁当を持ってこいよ、というのに持ってこない人もいる。そうかといって、なんも食わせんままだ活動してもらうわけにはいきません。人が来て作業する日には必ずむすびとつけものを用意した。泊まっていきたいという人もいようから寝床も用意した。そうした負担はすべて奥さんにのしかかります。私らもだいが話しました。「こんなことしてなんになる？」そう言われれば、私も「じゃあやめるか？今やめればわしらはただの百姓じゃ、なんも残らんわ」、そう言いました。俺たちが今やっているのは点の塗り絵なんだと、今は点をいっぱい打っている状態なんだと、そのうち点と点はつながって線になるんだから、線から絵になるんだからと、人が集まれば何かを起こす力になるんだ、そう説いたものです。私らもかなりもめたんですよ。

大を捨てて小を取る、そういう精神が、我が身を犠牲にしてでも他人に尽くそう、他人のために何かしようという、そういう精神のことを、義というでしょう。

農村には、妬みだとか、恨みだとかそんなものがいっぱいあるんですよ。コーヒー一杯 300 円なんて言って、先出しで金をとったらどんなことが起きるか。牧場に人がいっぱい集まってるときに、村の方では「今日は何台マイクロバスが上がった」と話をします。こんなことがありました。研修にきた学生が大きなリュックを背負ってバス停からわしの牧場まで上がってきた。そのときに村の連中は彼の姿を見て、「押し売りがきたぞ、気をつける」なんて言い合っていたと言うんですよ。先出しで金をとれば、めいめいが自分の金儲けをしているだけの話。今日は何台バスが上がったから、山本はいくら儲けやがった、その程度のことです。妬みを買うんですよ。農村という場所では、常に双方向でものを考えなくちゃいかん。

同じ交流をするなら、長く続けなくちゃいかん。今日はなんぼ儲かった、ということでは、いずれやめていくことになるだろう。

だから私は、学生が研修に来たときには、地域のバスを使うようにいつも言っています。お寺で畳の掃除をするといったら、お寺というのは広い、畳が 300 枚もあるんですよ、大変なんですよ、だから学生をボランティアで派遣して地域に貢献させるんですよ。

牧場に来たら、私は、大人も子どもも、徹底的に指導します。ヒエをとってくれ、あれをしてくれ、と学生でも大人でも徹底的に教えます。消費者、生産者、「わたし食べる人、あなた作る人」、そんなふうに分かれてはいけんですよ。

消費者団体も、町だけで活動するのではなく、現場を見て歩いてください。できれば作業なりなんなりに参加して、サポーターという関係を結び、地域単位で考えてください。

清水：こういう人たちと知り合って、私はふれあい事業ができたのです。はじめは山本さんのところに、土日、子守を兼ねて通っていましたが、そうした中で、親が与えることができないものを、子どもに与える力が林業や農業にはあるのを感じました。そこに、異業種の人が集まって、いろんな人たちがいれば農業の奥深い力をまだまだ引き出せるのではないかと感じました。

だから私は仕事で知り合う県の方たちでも、ふるさと牧場で作業する機会があれば「どうかね？ やってみたい？」と、積極的に(強引に?)誘うようにしています。そうしてきてくれた人たちの中で、また次のときに来てくれたりする人がいる。そういうのを見て、土日でも人が来てくれるのは、「あ、きっと彼らにも何か感じるものがあるんだろうな」と思っています。

私の場合は、仕事の域を超えて、土日に別の次元で進めていったものが、たまたま仕事とつながったような感じです。

今までの実感から、現場と一步踏み込んだ付き合いのできる人、サポーターを一人でも新しく作ることが大事ではないかと考えています。

質疑応答

質問：私は岐阜で今回の事業担当で、専門は和牛部門を担当している者です。私がこの仕事に就いてから、20 数年経過しましたが、その間に以前 1000 戸あった農家が 700 戸にまで減ってしまいました。高齢化が進み、後継者が減ったこともあり、悪臭や騒音、水質汚染が問題にされ、農村部すら牛を飼う環境ではなくなりました。畦草を刈って牛に食わしてやるというのは、常日頃の光景だったのに、いまじゃそんなことは見られません。

私たちの町は牛が盛んな高山という小さな町ですが、高校生に自分の故郷の産業をよく知ってもらおうと、精液の採取から、種付け、分娩、子牛の育成、肥育、肉の生産まですべて一連の流れで見せるということをしています。

山本さんに質問です。そういった、山本さんと同じような考えをもっていたり、活動していたりするグループは全国で他にもあるのでしょうか？ 知っていれば、帰ってみんなに伝えたいので、是非教えていただきたいと思います。また、人を集めて何かをしようというときのノウハウというか、コツのようなものがなにかありますか？

山本：里山には牛がいるのが基本条件であろうと、思います。いろいろな環境要因もあろうかと思いますが。今までは競争に打ち勝つための産業化、競争力の強化が進められていましたが、今村奈良臣という元東京大学の教授がこんなことを言っています。農業の6次産業化、村・地域ごと、谷ごと一つの農場と考える、谷ごと農場計画ということを行っています。

山の頂上には牛を飼っている畜産農家がいていいし、イチゴがやりたいという人がいれば、イチゴ農家がいてもいい。その中で、棚田と山林が繋がったような境界では、はしばしで放牧が必要になったりもするでしょう。谷ごと農場の中で、刈った草を食べる牛がいて、牛の生産、それから堆肥が作られ、一方では高換金作物であるイチゴをその堆肥から作る人がいたり、また稲作をみんなで進めるときもあったり、お互いを支え合うシステム、そういうことを言っている人がいます。

今までは都会に出て行っていたような、知的レベルの高い人間、能力の高い人間が今の農村には必要です。そういう人間が勉強ばかりではなく、花や生物を通して感性を鍛えることが必要でしょう。

あまり答えにはなっていないと思います。以上です。

質問：香川県で酪農をやっている者です。先ほど、やりたい人が農業をやれるようにするべき、という話がありましたが、まさしくその通りだと思います。食糧自給率が40%前後であり、国産の食品を食べたいと考える人が大勢いる。それほど食に対してみんな危機感をもっているのだから、新規就農したいと考える人もけっこういるはずです。新規就農の入り口をもっと系統的に整えるべきではないでしょうか？万人が知ることのできる入り口を設定するべきなのではないでしょうか？単に懐の広い農家さんに出会ったから就農できた、ということではなく、選択肢の一つとして農業を若者に用意できる社会をお願いします。これは、質問ではなく、私の気持ちです。

吉富：山本さんに質問です。私の考えている継続と、山本さんの考えている継続は違うような感じがします。こぶしの里牧場交遊会の形というか、どんなシステムで動いているのか、教えていただけませんか？

山本：都市の人たちに、農薬を使用しないとこんなに草取りがきついのだ、ということを知ってもらいたいんですよ。辛さ知ってもらった上で初めて、高く買ってくださいね、と提案しているということです。「わたし食べる人、あなた作る人」で分かれてしまうのではなく、大変だということを知って、支えていただきたい。それぞれができる範囲でいいんですよ、農家とサポーター関係を結んで欲しい、そういうことです。

ちなみに価格は設定していません。今は郵便ポストの形をした貯金箱をひとつ置いているだけです。その人の善意でポストに入れてもらっています。ポストを開けたときには1円玉も入っていましたが、それでもいいんですよ。集まりに1回しか参加しない、それっきり来ない人がいる、それでもいいんですよ。だいたい、子

どもらが関わって、子どもらが作った畑から採れた生産物でビジネスをやる必要はないでしょう。それは品がないと思いますよ。

それから、あとはまあ、こんなことしたいって人がいたら、話を聞いて、やれそうならその都度実行してますね。

吉富：なんだかお話を聞いていると、私たちの団体はちょっと上滑りの活動をしてきたのかもしれないと感じます。反省すべき点がありますね。

質問：前回、1回目のシンポジウムの開催地、岩手の葛巻から来ました。私どものところでもふれあい活動をやっています。そこで3点ほど質問させていただきたいと思います。まず、学校側にアピールすることの難しさを感じているのですが、そのことについて、小泉さんに、何かうまく話を進められるコツのようなものでもあれば、聞かせていただきたいです。それから、吉富さんと山本さんにそれぞれ質問です。ふれあい活動の際に、主催する団体と、現場の農家の間で温度差を感じることはありますか？

小泉：やはり、学校側にこうした活動をうまく売り込むというのですかね、この点が一番難しいように思います。ただ、4年前から私たちのように、コーディネーターとして活動している栄養教諭が現れ始めていますので、そうした人たちをつかまえるのが話が見やすいかと思います。県の教育委員、市の教育委員に話を持っていても、彼らは学校という現場を持っていませんので、話がなかなか進みません。それよりも直接学校に行くか、または現れ始めた栄養教諭にコンタクトをとられると良いでしょう。味方についてくれそうな学年であるとか、先生を把握するのも大事なことです。

一度そうした活動を行ってしまえば、牛などの動物にふれて子どもたちが喜ばないはずがないので、大失敗はまずしません。子どもたちは大喜びするはずです。そういうふれあい体験を子どもたちにさせてやりたいと考えている先生はどこの学校にも1名や2名は必ずいます。一人や二人ではなく、きっともっているはずですよ。こういった体験がどれだけのインパクトを子どもたちに与えることでしょうか。こう、子どもたちの頭にパッと光を当てるような、劇的な印象を残します。その子が違ってくるくらいの影響があるのです。

例えば、ふれあい活動後の学習体験発表の際に、その体験が子どもにどれだけ印象強く焼き付けられているかが分かりました。ですから、1回できれば、どんどんその学校に、その学年に入り込むことができるはずですよ。

吉富：温度差というのか、やはり生産者の方と考えがずれることがあるというのが、改めて今日の山本さんの話を聞いて思ったことですね。私たちはつい行事に追われて、浅いところで活動していたかもしれません。支援ということをコストだけから考えて、参加料という形で簡単に解決しようとしていました。

山本：私たちはどんな人を受け入れるのか、ということなんですが、大勢の人がたくさんいっぺんに来られても、場所もスタッフも限られているのだから、限界があ

ります。安易に大勢受け入れたとしても、相手方に迷惑をかけてしまう結果になりかねない。

当面は清水さんが作ってくれた牧場のHPを見て、それで来る人たちを受け入れています。また、そうやってくるのだから、当然知らない人ばかりでういてしまう人もいますが、一見さんがういてしまわないように私たちの方で全力でサポートもします。

葛巻さんのような大きいところも必要であろうし、うちのような小規模なところももっといっぱいあったりするんでも良い。理解が得られるようになれば、時代の必要によって各地でこうした取り組みはできてくるだろうと、私は考えています。

この活動に対し、コンセンサスを得られるようになれば、税金を投入するような動きもあっていいように思います。そうすれば、ふれあい活動に対して得点評価を加えるようなシステムを作って、高い評価を得るところはそれで生活が支えられる、そういうようなことがあっても良いと、そのあたりまで考えています。

質問：神奈川で酪農をしている者です。吉富さんの話にありましたが、安いが正義というような風潮もいまもってあります。酪農家にとっては、乳価の安いのに苦しんでいる者ばかりです。酪農家戸数は激減してきています。このような動きの中で、自給率の低下は当然のことです。もはや酪農家は生きるすべが見あたりません。その点、今日は少しでも何かを学べれば良いなあ、とそんなふうに感じています。

質問：私たちは大阪の方で、ふれあい活動において小学校と良い関係を運良く結ぶことができています。カリキュラム云々で難しい面もありましたが、たまたま学校と深い関係を結ぶに至ってます。体験の後に、子どもたちからハガキが届いたりするんですが、どうもその内容を読むと、今日の活動を親御さんに話したとか、そんなことで家庭の中まで波及効果がどうもあるのではないかと思っている。保護者がどう思っているのか、学校から直接聞かせてもらったことはないのによく分からないが、保護者はこうした活動についてどう感じるのか、小泉さんの知っている範囲で聞かせてください。

小泉：悪い印象は持っておられないと思います。ですが、絶対に必要なのはアレルギーに対するケアですね。これだけは注意しておいて下さい。

子どもが報告を家庭まで持って上げられるようにする、体験が家庭に伝わるようにする工夫も重要ではないかと思います。私たちはよく、キャッチボールだよ、なんて言うのですが、あんなことした、こんな反応があった、次はこうしてみたい、そんな気持ちのやりとりを継続して行うことが重要です。キャッチボールを積極的に行うようにすれば、その事業は発展しやすくなるでしょう。

栄養士の観点からすると、家庭科という授業の本質でもあるんですが、その日勉強したことが、家庭・日常生活で生かされることが重要です。それが学校の栄養教諭の願いでもあります。

前書きとして

平成20年 12月
ふるさと牧場 山本 喜行

「野に在りて想うこと」は平成12年12月、山口県草地研究会創立30周年記念誌に投稿し、発表されたものであります。

思い起こせば当時、農村は高齢化に向かいつつも日本経済は余力を持っており、雇用も十分あり勤めをしながら、機械と化学肥料、農薬を頼りとした稲作中心の第二種兼業農家が主流でした。「放牧」については先進地において点的にシバ草地による「山地酪農」が行われておりました。里山、山林においては松くい虫の被害が拡大し、竹林の繁茂と林業従事者の高齢化による山林の荒廃が進んでいました。

私はそのような状況下で日本古来の牛、黒毛和種を畜力として用い、里山を営々と守ってきました。

「日本農業、農村文化」を継承し、稲作・耕種（アグロカルチャー）+山林（フォレスト）の「アグロフォレストリー」として里山環境を守りぬく為にも牛の放牧は不可欠な要素である、と思います。

平成20年、今に目を向ければ、牛は山や谷を歩き続け草をはみ、林地では樹木も大きく育ち、森の木漏れ日と奥深さを感じさせるすばらしい景観が出来ています。

農業の多面的機能を十分に生かすべく、子ども会、中学生、大学生、親子体験などの環境教育、体験学習も数多く受入れており、近年ではそのニーズも増えています。

農業、田舎暮らしを目指す人材育成についても継続的に取り組んでおります。こぶしの里牧場交遊会がサポーターとなって茅葺きの交流ハウスを参集の場として、花見、田植え、稲刈り、餅つきなど生産と楽しみを持ったコミュニティーの場を作り上げ、リピーターも増え、生産したおいしいお米と野菜の需要は増加しています。ホリデイワークとして生産活動に参加し、農業技術を自ら習得する人も増え、生産と、消費を直結したシステムとして動き出しています。将来的に、地域の老齢化による放棄水田などを借受け耕作することで、食料自給率のアップと農地の保全に寄与し、農村の振興と人材の育成、ひいては環境の保全に結びつく持続可能な農業、農村の方向性が見えて来ました。



野に在りて想うこと

～ 民の公的牧場をめざして
それは混木林経営で ～

- 1 中山間地域は条件不利地ではなく、条件有利地である。
- 2 小手先の農業ではなく、少なくとも30年先を見た戦略を考えるべきである。
- 3 牛力利用で公園化。市民に絶賛される景観の創出。
- 4 多面的機能が発揮されるべきである。
 - (1) 生産の場
 - (2) 実地研究の場
 - (3) 教育研修の場(ワークショップ)
 - (4) レクリエーションの場
- 5 混木林経営を目指す人材育成
- 6 NGO(こぶしの里牧場交遊会)による「ふるさと牧場」に対する支援

(社)日本草地畜産協会指定「低投入型肉用牛展示牧場」

“ふるさと牧場” 牧場主 山本 喜行

〒747-0102 山口県防府市久兼 410

TEL 0835-36-0337

“こぶしの牧場交遊会” 会員募集中！！

興味のある方、会員になりたい方はお問い合わせください。

会 長 高橋 肇

事務局 清水 誠

mail: mshim@d2.dion.ne.jp

HP: <http://www.d2.dion.ne.jp/~mshim/>

で検索

はじめに

以前、「21世紀に向けた農業革命」と題して、私の「ふるさと牧場」を紹介させていただきました。(畜産会経営情報 1998.5.15 NO.102)

現在は、以前にも増して国際化の波が押し寄せ、農村は今や崩壊するのではないかと心配されます。

そこで、今一度過去を振り返り、先人達がやってきた農林畜複合経営を思い起こす必要があるのではないのでしょうか。

これから先の農村を救う、いや、日本の国土を守る方法として、「混牧林放牧」は重要なキーワードではないのでしょうか。

私は混牧林放牧を初めて10年になりますが、これほど優れたシステムは無く、また、経営学的に見ても「安定拡大成長」が続けられる分野は他に無いと自信を持って言えると思います。そのすばらしさを以下項目毎に触れてみたいと思います。



1 中山間地域は条件不利地ではなく、条件有利地である。

自然を味方に付け、決して逆らわない心を野に置いた時、そこには沢山の資源があることに気づくはずです。「草木土水動物」などに対し、売っていくら、儲けていくらの気持ちが強すぎ、自らの糸を纏らしているのです。

今や「農民なき農村」であると言っても過言ではないと思います。

先人達は、牛で田を鋤きながら、あぜ草・石垣の草を牛に与え、刈り端の草としば木を牛の糞尿と混ぜ合わせ“たい肥”を作り、田に返し“土づくり”をして、おいしいお米を作っていました。冬には、山に入り植林や山の手入れをする傍ら、薪炭を作り燃料とし、また、椎茸、ワサビを生産し、無限に繰り返され続ける生産システムを作りあげてきました。このことにより、我が国の里山の素晴らしい景観が作られてきたと思います。この生産システムを、牛を中心にして再び復活させる必要があるのではないのでしょうか。

棚田は、きれいな谷水が入り、昼夜の温度差も激しいため、おいしいお米ができるとともに、牛の食料源にもなります。また、山の植林地の下草刈りを牛に任せることにより、牛達が林業施業を助けてくれ、里山景観を守ってくれます。

今や人が自然と共に生き、「エコシステム」を取り入れることができる場所は、中山間地しかないのです。

2 小手先の農業ではなく、少なくとも30年先を見た戦略を考えるべきである。 (列状(等高線)間伐とシバ草地の組み合わせ)

私も、混木林放牧を始めて10年、ようやくそれらしき景観ができつつあります。10haの放牧林地も、ヒノキの食害のひどい場所、程々の場所、牛が入らない所、牛道を付け裸地にしていく所など、牛が土地利用を企画してくれているようです。

これからの10年は、食害のひどいところはシバ草地化し、裸地化した所にも随時ノシバを移植していこうと思います。

間伐の必要になった林は、日光と風向きに注意し、列状(等高線)間伐を行い間伐跡地はシバ草地化していこうと思います。

“ふるさと牧場”の中腹のログハウス(牛舎)には、「山成り有畜林業」「牛が守る自然環境」の二つのメッセージを掲げています。



山は山成りに、中下層部分はヒノキとノシバの組み合わせ、上層部分は、雑木林の二次林と、極層の天然林さらにシバ草地と区分し、湧き水の池を利用して日本庭園化する。(この地域を父は、“流田”と言っていたので、通称“流田公園”と呼びたいと思う。)

このような中で、80年以上の大径木に育て高付加価値の材の生産を目指し、枝打ち・間伐を行うために最も重要な10年となります。

さらに次の10年で、シバの管理と山林の管理を続けてこそ、混木林経営が達成できるものと思います。

3 牛力利用で公園化。市民に絶賛される景観の創出。

混木林の今ひとつのテーマは、レクリエーション的空間ゾーンの創出です。そのためには、「こぶし」「山ツツジ」「つばき」「つるあじさい」等の花の咲く木を鑑賞木として大切に管理する事です。ヒノキとの混生が無理な所は、全山「花畑」ならぬ「花山」にしている所もあります。幸いにもこれらの花が咲く木は、アクが強く牛達は食べないようです。



最近になって「つるあじさい」が6月頃からあちこちのスギの木に登り花を咲かせるようになりました。以前は、「つるあじさい」のツルがスギの木を締め付けて木を枯らすということで「つる切り」という大事な作業として、父は切っていたからです。(実際にはこのツルは木に巻き付かないで登るので、木を枯らすことは無い。)

この花を見せよう！！逆転の発想とはこのことかもしれない。

また、このツルは「つづらかずら」として、色々なかご細工の材料に最高で、後で述べる“ふるさと牧場を支援する会”の会員にかご細工の名人もおられ、各種のイベント材料として利用できると思います。

混木林を整備する中で、一つ残念に思うことがあります。「山ぼうし」といって白い菱形の大きな4枚の花弁で咲く花がありますが、この木を知らなかった故に、一部を残して切ってしまったのです。今は、牛が残した下草を整理刈りするときに、切らないように注意しています。この木が花を咲かせるのは10年から20年先かもしれません。

山頂に通じる林道は、排水をきちんとし、シバを植えて歩きやすいようにし、トレッキングコースとして整備をしています。春は市民参加のバーベキュー等により、行政主導のテーマパークとは一味違った「牛が管理する公園」として市民に開放しています。

このような手作りの公園が点的にでも普及されることは、人々に安らぎを与えると共に、真に農村を理解してもらうことにつながる一番の近道ではないでしょうか。

4 多面的機能が発揮されるべきである。

(1) 生産の場

私はキャリアバインダー（乗用稲刈りバインダー）を駆使し、すべての稲をはぜに掛け「はぜ掛け米」としておいしいお米の商品開発もしています。

米作りに当たって、化学肥料の多給や多収穫のマニュアルは本当に妥当なのか？

あえて畦をコンクリートに替えたり、畦を削って畦塗りをする、こんな無駄な労力が必要なのか？疑問で仕方がないのです。

自然との共生を考えたとき、畦に空いたモグラの穴もうまく利用し、水漏れの穴は足でつぶす、そして、水を張り次に漏れだした穴をつぶしていく。水が有ったり無かったりで稲は自分の持っている本能を発揮し、根は地下を目指し微量要素を吸って健康な稲になり味も増すのです。そして、そこからとれる稲わらは、すべて牛達に与えるのです。

(2) 実地研究の場

今年の2月に、（社）日本草地畜産協会から「低投入型肉用牛展示牧場」として指定を頂き、案内看板の設置や牧場のパンフレットを作成しましたが、情報交換の場・研修の場として県内外から多くの畜産関係者が視察に来られています。

山口大学農学部の小澤教授の研究グループにより牛の動向調査、林地内の下草刈りに対する牛の貢献度調査、放牧地として利用した水田での稲の作付け調査、ノシバ草地の育成及び土砂の流出防止調査等が行われています。

また、ふるさと牧場独自に「植林にあたって苗の成長点を牛に食べさせないための大苗での移植生育調査」「受精卵を応用したF₁牛の放牧試験」などを行っています。



(3) 教育研修の場(ワークショップ)

今、我が国では教育改革が行われ、小・中・高校生の現場体験学習が積極的に行われ始めています。ふるさと牧場でも数々の体験学習を受け入れてきました。

今年は、国立徳地少年自然の家を中心とした小学生の「人と動物の関わり」、山口大学や県立農業高等学校によるノシバの植え付け、山口大学農学部によるフィールドワーク(間伐・枝打ち体験)、東京農業大学の学生によるショートホームステイ(土地利用から見た混木林)等を行いました。

最近、山口大学農学部の高橋助教授の誘いもあって、中四国環境教育ミーティングの実行委員として参加させて頂いています。平成13年に山口県が引き受ける国立徳地少年自然の家を中心に大会が行われる予定です。その一分科会に「牛が守る自然環境」という事で提案してみたいと思います。また、来年は秋吉台で「草原サミット」も開催される事となっており是非参加していきたいと思います。

(4) レクリエーションの場

春の山桜、こぶしの花、ワラビ刈り、タケノコ掘り、田植え、夏のキャンプ、バーベキュー、鮎・ヤマメの会、ソーメン流し、秋には稲刈り、キノコ狩り、冬には炭焼き、いろり端等里山には一年を通じて、都市と農村を結ぶ可能性がたくさんあります。

都市と農村の交流の場として大きな役割を果たしていると思います。

また、ふるさと牧場には一般市民の見学、特に最近ではよちよち歩きの子供さんを連れた親子が「子牛を見せてください」と訪れ、動物とのふれあい(アニマルセラピー)を求める人が多くなったように思います。このような、都会にはない動物とのふれあいも大切な側面として見逃せません。

今後とも、多様な市民の要求に応えられるよう、グリーンツーリズムを柱に森林インストラクターなどの専門的知識も身に付けていく必要があると思います。



5 混木林経営を目指す人材育成

最近、ある青年が早朝私の家の玄関をたたいたのです。

「この牧場の記事を見て感動してやってきました。牧場を見せてください。」と言うのです。

その青年は、帯広の畜産大学を卒業し「北海道あたりの大規模な畜産ではなく違った型の農業がやりたい。牛で田んぼを鋤いてみたい。」と言い、まさしく自然派だなと思いました。

事情を聞いたところ、「今、島根県の弥栄村の有機野菜農家に研修に来ており、島根県の短期研修制度により県から月5万円をもらっています。2日間休みをもらい自転車で来ました。」ということでした。

それで、「今から牛を飼って、林内放牧地や林地・シバ草地を案内するから」ということで牛を飼い始めたところ、それまで牛舎の外にバラバラにいた牛達が順序よく次から次へと自分の場所に入ってくる姿を見て、大変驚いた様子でした。

私の体験談や放牧方式、生態系のこと、人生論まで論議し、気がつけば陽は西に傾き午後4時になっていました。

青年：「この牧場で来年1月頃から2ヶ月ほど研修させてください。」

私：「冬場はシバ草地の造成のための木の伐採をやり、春になったらボランティアの人たちとノシバの植え付けをするんだよ。」

青年：「是非、その仕事をやらせてください。」

私：「でも、山口県に短期研修に対する助成制度は無いと思うよ。寝る所と食べることは心配いらぬよ。」

青年：「それだけで充分です。」

大変真剣でやる気のある青年だなと思い、一応引き受けるようにはしてあります。

今は、高校生、大学生は就職難のようですが、農業を志している有能な人材は多いと思います。しかし、土地の問題、技術、資金など越さなければならないハードルは沢山あります。だからといって手をゆるめる訳にはいきません。

これから混木林を目指す若者を育成しなければなりません。

混木林は、林業、稲作、畜産、機械の操作・修理、土木、石工、建築、植物などあらゆる分野の知識が必要になります。すべてがこなせるスーパーマンでなければできないのです。まさしく【能業】なのです。

実際に自然の厳しさに触れさせ、肌で感じさせることがいかに重要であるか。

できることなら、皆様の応援をいただき、混木林を目指す若者を対象に年間2名程度、自主性に任せた体験研修をさせてあげたいと思うようになりました。

6 NGO(こぶしの里牧場校遊会)による“ふるさと牧場”に対する支援

これまで、バーベキューをしながらの“こぶしの花見会”を毎年4月に行っていました。これでは、その場限りで継続性が無いので、交流会のような会を発足させてはどうかという声が挙がるようになりました。

今年の8月に、山口大学の小澤先生を会長を、山口農林事務所の平田さんに事務局をお願いし、県立農業高校の先生、国立徳地少年自然の家の先生、有機野菜の栽培に取り組む人、地元の久兼地区の人、放牧に興味を持つ県の指導機関の人等の熱意で『こぶしの里牧場校遊会』が発足しました。自然の中で肩書きに関係なく個人としてふれあい、ふるさと牧場の活動(教育・研修・交流等)の支援、里山文化の体験・継承、林内放牧を行い、12月には将来建設を計画している「茅葺きの交流ハウス」のために、山の茅を集めることとしています。

今後の活動には、市民の参加を得て里山体験等のイベントの開催も計画しています。椎茸栽培、炭焼き、パン作り、イモ作り体験など、やりたいことをあげればきりがありません。

こうした支援を頂く中で、今年度から始まった中山間地直接支払い事業も“市民との交流”ということで集落協定を結び、地域に貢献できることとなりました。

広大な面積のノシバの移植、これから始まる枝打ちや間伐作業等に対し、NGOやワークショップという形で支援していただけるなら、今までこつこつと一人でやってきて不可能であったことが可能となり、なんと素晴らしいシステムになることと思います。

今から山地畜産を始める人たちにも支援し、少しでも早くあちこちの山に牛が放牧されるよう努力したいと思います。



おわりに

牛達が毎日決まった時刻に、どこからともなく三々五々牛舎に帰っていく姿を見ると、涙が止まらなくなることがあります。親たちの時代には、奥山に10haほどの山田があって（今は、杉山と化しています）牛で田を鋤き終えた村人達が三々五々牛を連れて家路についていましたが、その姿と牛達が帰る姿がオーバーラップします。今は牛だけがそれを続けているのです。この素晴らしいシステムが土地をネックに普及しないのが悔しいのか、村人達が懐かしいのか私にはよくわかりません。

地主は荒れ果てた山林や耕作放棄地を所有し続け、利用権まで独占し「売らない」「貸さない」という「ないない運動」を続けるなら、やがて全てを亡くすことに気づくはずですが。そのときまで、やる気のある若者の芽をつみ取るのが忍びないのです。

「若者よ！！ もう少し待っていて下さい！！」

そして、皆様に誇れる「ふるさと牧場」として、また将来、古老が旅したとき、レールスターの車窓の景色が、グリーンの中で牛達が草をはむ牧場の風景にリセットされることを夢見て努力したいと思っています。

